

## 平成25年度第7回SPODネットワークコア運営協議会 議事次第

日 時：平成25年12月18日（水）15：15～17：00

場 所：愛媛大学城北キャンパス 法文学部本館2階中会議室

議 題：

### 1. 平成26年度SPOD事業及び事業経費について

- ・平成26年度SPOD事業計画（案） 【資料1-1】
- ・平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業経費（案） 【資料1-2】

### 2. 平成26年度SPOD内講師派遣について

- ・平成26年度SPOD内講師派遣プログラム一覧（案） 【資料2-1】
- ・平成26年度SPOD内講師派遣プログラム概要（案） 【資料2-2】

### 3. 平成25年度SPOD活動報告書について

- ・平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」活動報告書  
（冊子版）構成（案） 【資料3-1】
- ・平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」活動報告書  
（HP掲載用）構成（案） 【資料3-2】
- ・平成25年度FD／SD活動の取組報告書（案） 【資料3-3】
- ・平成24年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」活動報告書 目次  
【参考資料1-1】
- ・平成25年度SPOD事業計画 【参考資料1-2】
- ・平成24年度FD／SD活動の取組報告書 【参考資料1-3】

### 4. 平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会及び FD／SD分科会の開催について

- ・平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会及び  
FD／SD分科会 実施要項（案） 【資料4】

### 5. 平成25年度SPOD事業評価委員会委員開催について

- ・平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)事業評価委員会実施要項(案) 【資料5】
- ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)事業評価委員会要項 【参考資料2-1】
- ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業評価委員会委員名簿 【参考資料2-2】

#### 6. 各コア校で実施する新任教員研修について

- ・第20/21回愛媛大学授業デザインワークショップアンケート集計結果 【資料6-1】
- ・教育力開発基礎プログラムアンケート集計結果 【資料6-2】
- ・新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」アンケート集計結果 【資料6-3】
- ・学生の学びを支援する授業準備ワークショップアンケート集計結果 【資料6-4】
- ・第20/21回愛媛大学授業デザインワークショップ実施要項 【参考資料3-1】
- ・教育力開発基礎プログラム実施要項 【参考資料3-2】
- ・新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」実施要項 【参考資料3-3】
- ・学生の学びを支援する授業準備ワークショップ実施要項及びチラシ 【参考資料3-4】

#### 7. 次世代リーダー養成研修について

- ・次世代リーダー養成研修(第4回)実施要項 【資料7】

#### 8. 平成25年度大学人, 社会人としての基礎力養成プログラム研修について

- ・平成25年度大学人, 社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ)アンケート集計結果 【資料8-1】
- ・平成25年度大学人, 社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ)アンケート集計結果 【資料8-2】

#### 9. 大学教育カンファレンスin徳島について

- ・平成25年度全学FD推進プログラム大学教育カンファレンスin徳島プログラム 【資料9】

※当日開催のSD専門部会で承認された場合に議題及び資料追加

#### 10. SPODにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの認定について

## 平成26年度SPOD事業計画（案）

※青字：前回コア会議からの変更事項

## 1. FD事業

- ・新規採用教員研修（年5回） 開催場所：各コア校 ※愛媛大学は2回実施
- ・ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（年3回）
  - ①全加盟校教員対象（年2回）
    - 開催場所：東四国－徳島大学 西四国－愛媛大学
    - 共催：大学評価・学位授与機構（予定）
  - ②高専対象（年1回） 開催場所：愛媛大学 共催：大学評価・学位授与機構（予定）
- ・ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ（年1回）
  - 開催場所：愛媛大学または徳島大学 共催：大学評価・学位授与機構（予定）
- ・アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ（年1回）
  - 開催場所：愛媛大学 共催：大学評価・学位授与機構（予定）
- ・各種FDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校
  - 研修プログラムガイド2014に掲載したプログラム，派遣事業プログラム

## 2. SD事業

- ・職員のための講師養成講座（年2回） 開催場所：愛媛大学1回，コア校1回
  - 平成25年6月中旬・平成25年11月上旬
  - ※主担当校：SPOD事務局 協力校：愛媛大学
- ・大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（年5回）
  - 開催場所：徳島大学，愛媛大学
  - レベルⅠ（新任職員研修）
    - 1回 5月上旬（徳島大学）
  - レベルⅠ 1回 10月中旬（愛媛大学）
  - レベルⅡ 1回 9月下旬（愛媛大学）
  - レベルⅢ 1回 7月上旬（愛媛大学）
  - 共通科目 1回 12月上旬（愛媛大学）
  - ※主担当：SPOD事務局 協力校：徳島大学，愛媛大学
- ・学務系職員養成プログラム（年1回） 開催場所：四国大学
  - レベルⅠ 1回 7月24日（木）～25日（金）（四国大学）
- ・社会連携系職員養成研修（年1回） 開催場所：高知大学
  - ※SPODフォーラム2014において開催
  - ※主担当：SPOD事務局 協力校：高知大学，愛媛大学
- ・国際連携系職員養成研修（年1回） 開催場所：高知大学
  - ※SPODフォーラム2014において開催
  - ※主担当：SPOD事務局 協力校：高知大学，愛媛大学
- ・次世代リーダー養成ゼミナール（年4回）
  - 平成26年度受講者対象 4回，平成27年度受講者対象 4回
  - 開催場所：徳島県，香川県，~~高知県~~愛媛県
  - 第1回 5月下旬 愛媛

第2回 8月上旬 ~~高知~~ 徳島

第3回 11月上旬 ~~徳島~~ 愛媛

第4回 平成27年1月下旬 香川

※主担当：SPOD事務局 協力校：高知大学

- ・高等教育トップリーダーセミナー（年1回） 開催場所：高知大学  
SPODフォーラム2014で実施

※主担当：SPOD事務局 協力校：香川大学

- ・スタッフ・ポートフォリオの開発  
ワークショップをSPODフォーラム2014で実施
- ・各種SDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校  
研修プログラムガイド2014掲載したプログラム，派遣事業プログラム
- ・SDコーディネーター養成講座（年1回）

※教職員能力開発拠点（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）の事業として実施

### 3. SPODフォーラム

- ・平成26年8月27日（水）～29日（金）開催場所：高知大学

全体テーマ

「学生の成長を確かなものとするために」

※教職員能力開発拠点（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）と共催

### 4. SPOD共通事業

- ・SPOD内講師派遣（加盟校単位 各1回 計26回） 開催場所：各加盟校  
ただし，短期大学及び短期大学部が併設されている4年制大学については，あわせて1回とする。詳細は，研修プログラムガイド2014に掲載
- ・SPOD将来構想ワーキンググループ
- ・調査研究プロジェクト事業（年3回）
  - ①高等教育教授能力証明プログラム検討ワーキンググループ（FD部門）
  - ②連携効果検証ワーキンググループ（FD部門）
  - ③組織変容検証ワーキンググループ（FD部門）
  - ④学生調査・IRワーキンググループ（FD部門）
  - ⑤連携効果・組織変容検証ワーキンググループ（SD部門）

### 5. SPOD運営

- ①総会（年1回） 平成27年3月頃
- ②ネットワークコア運営協議会（毎月）
- ③事業評価委員会（年1回） 平成27年3月頃
- ④監査（年1回） 平成27年3月頃
- ⑤その他
  - i. FD／SD分科会
    - ・FD分科会（年1回） 総会と同日開催（平成27年3月頃）
    - ・SD分科会（年1回） 総会と同日開催（平成27年3月頃）
  - ii. SPOD加盟校県内会議
    - ・徳島県内（随時）・香川県内（随時）・愛媛県内（随時）・高知県内（随時）

平成26年度SPOD内講師派遣プログラム一覧(案)

ジャンル	区分	No.	プログラム名	担当講師				
				徳島大学	香川大学	愛媛大学	高知大学	阿南高専
授業改善・ 教授法	FD	1	学生の学びを促すシラバスの書き方	宮田,吉田	葛城	小林,秦,山田,仲道	塩崎,立川,俣野	
	FD	2	グラフィック・シラバスの作成方法				立川	
	FD	3	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？		岩中		塩崎,立川,俣野	
	FD	4	大人数講義を魅力的にするテクニック	川野	葛城,佐藤	小林,山田		
	FD	5	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン ※H26新規				俣野	
	FD	6	学生が動く・変わる・活き活きするグループワークの進め方			小林,秦,山田	塩崎,立川,俣野	
	FD	7	教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法				立川	
	FD	8	クラスルームコントロール			秦		
	FD	9	効果的なeラーニングの活用方法			仲道		
	FD	10	基礎から学ぶ学習評価法	宮田	佐藤	山田	塩崎,俣野	
	FD	11	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインスタクショナル・デザイン(ID)入門 ～ARCS動機づけモデルの活用～			仲道		
	FD・SD	12	マインドマップ入門講座 ※H26新規				俣野	
	FD	13	マンネリ化しない公開授業の秘訣～公開授業の効果的実施方法～	宮田		秦,山田		
	FD	14	授業アンケートを見直しませんか？～アンケートの効果的実施と活用方法～			秦,山田	塩崎,立川,俣野	
	FD	15	ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～			小林,秦,清水		
	FD	16	高専生を元気にする学生指導法のコツ					坪井
	FD	17	担任教員に求められること～担任スキル開発ワーク～					坪井
	FD	18	事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育 ※H26新規					坪井
プログラム 開発								
高専向け								

## 平成26年度SPOD内講師派遣プログラム一覧(案)

ジャンル	区分	No.	プログラム名	担当講師				
				徳島大学	香川大学	愛媛大学	高知大学	阿南高専
業務改善	SD	19	大学職員のための企画力養成講座			秦,阿部,仲道		
	SD	20	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座			秦,仲道,阿部		
	FD・SD	21	教職員のためのPowerPoint～分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方～				立川	
	FD・SD	22	プロジェクト・マネジメント入門 ※H26新規			仲道, 丸山		
人材育成・人事制度	SD	23	スタッフ・ポートフォリオ入門～職員と大学が共に輝くために～			秦,阿部, 清水		
	SD	24	持続可能なSDプログラムの開発手法			秦,阿部		
	SD	25	人事人材育成ビジョンの必要性			秦,阿部		
学生支援に関するプログラム	FD・SD	26	学習ポートフォリオ入門～学習活動のリフレクション～			秦,山田		
	FD・SD	27	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	吉田	葛城,佐藤	秦	塩崎,立川	
IR	FD・SD	28	教育の質保証と学習成果アセスメント			山田		
事例紹介	FD	29	学生が輝くFDの実践事例			小林,山田	塩崎,立川,俣野	
	SD	30	職員が輝くSDの実践事例			秦,阿部		
	FD・SD	31	FD・SDを効果的に進める組織づくり～事例紹介とお悩み相談～	徳島県内担当	香川県内担当	愛媛県内担当	高知県内担当	

平成26年度SPOD内講師派遣プログラム概要(案)

ジャンル	区分	No.	プログラム名	内容概要
	FD	1	学生の学びを促すシラバスの書き方	シラバスは、授業デザインの基本であり、より良いシラバスを作ることはより良い授業を作るための出発点となります。しかし、シラバスを作るためには、様々な授業形態、評価方法といった知識がなければなりません。また、授業全体をわかりやすく構築するデザイン力も必要となります。本プログラムでは、参加者の皆さんに良い授業のヒントを持ち帰っていただくため、シラバスの定義、目的・目標の設定、授業内容、スケジュールのデザイン、評価方法の選択について具体例を示しながら解説します。また、学生の時間外学習を促す事例も紹介します。シラバスを持参の上参加いただければ、その場でブラッシュアップしていただくことができます。
	FD	2	グラフィック・シラバスの作成方法	シラバスは、学習目標やスケジュールが書かれた、授業に関する最大重要文書と言えます。ところが、教員が期待するほどには、学生は注意深くシラバスを読んでいるという事実です。たとえば、学生が読んだとしても、教員が持つ背景知識を踏まえてシラバスの内容を理解することは困難です。グラフィック・シラバスとは、学習内容をフローチャート、ダイアグラム、樹形図として一枚のマップに表現したものです。学生はこれを読むことによって、学習目標や内容を効果的に理解できるだけでなく、容易に記憶にとどめることができます。また教員は、これを通して、自らの授業内容やキーワードを精選し、構造を明確化し、より円滑な流れで授業の再構成を行うことができます。
	FD	3	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	本プログラムでは、グラフィック・シラバスの意義や特徴を簡単に説明した上で、参加者全員が自らの授業についてグラフィック・シラバスを書く個人ワークに取り組みます。ペアワークによるブラッシュアップを経て、再度、個人ワークに取り組みます。参加者は担当している授業のうち、どれか一つのシラバスを持参ください。
授業改善・教授法	FD	4	学生が学ぶ意欲を引き出す授業とは？	やる気(学ぶ意欲)は、学生の授業態度、授業外での自主学習の質や量、最終的に学習成果を決定する要因です。授業を通して学生のやる気を引き出すことは私たちの大切な役割です。DVD教材を使用する、グループ活動を行わせる、ゲーム的要素を盛り込む等、学生のやる気を引き出す方法は様々ですが、その場しのぎの活動になってしまつと学習成果は期待できません。学生のやる気を引き出しそのやる気を保持するための理論的な枠組みを理解した上で、どのような授業活動を行うのかを考えていく必要があります。本プログラムを通して、参加者の皆さんに学生のやる気を引き出すための理論的な枠組みを理解していただき、授業に役立つ具体的なアイデアを互いに共有したいと思えます。本プログラムをよりインタラクティブで実りのあるものにするために、参加者の皆さんは、自分の授業において学生のやる気を引き出すためのどのような工夫を行っているのかを箇条書きにしたメモをご持参ください。
	FD	5	大人数講義を魅力的にするテクニック	「よい」講義とはここでは、聞き手の学生にとって分かりやすく、知的な緊張感があり、さらに学生が参加する(した気)にさせる)講義、ということになります。本プログラムでは、学生とコミュニケーションを取る方法、講義に参加させる方法や授業効果を高める方法など、大人数の学生を聴衆とした「よい」講義をするために気をつけておかなければならない様々な授業スキルを、実例や実習を通して習得することができます。また大人数講義でも取り入れることが可能な、簡単な参加体験型授業/アクティブ・ラーニング型授業の一例として、受講者に実際にグループワークを体験していただきます。
	FD	6	NEW! 講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン	「学びのプロセスに学生自身がどれだけ関わることができたか」が学習成果を左右すると言われています。ここ数年、学生参加型や双方向型授業といった名称の授業が増えてきていることの大きな理由がここにあります。そこで本プログラムは、授業の活動性を高めるために、講義の一部にグループ学習やペア学習を取り入れてみたいと考えている教員を主な対象として、そのための考え方や方法(主に協同教育の理論)を参加メンバーと共に学び、理解することを目的として実施されます。
	FD	7	学生が動く・変わる・生き活きるグループワークの進め方	グループワークを取り入れた参加型授業形式を取り入れる大学教員が増えています。一方、グループ毎に取組みに差が生じる、グループ内での作業に個人ごとの偏りがあるなど、実施にあたっては課題もあります。本プログラムでは、様々なグループワークの事例を紹介しながら、上手な進め方や成功するためのコツを学びます。参加者は実際にグループワークを体験しながら学習することができます。受講後は、現状よりも活発なしかげができるようになることを目指します。
	FD	8	教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法	教えるも教えずも成績が上がらない。そんな悩みはありませんか？ TBL:チーム基盤型学習には次のような特徴があります。正しい知識をたくさん身につけてもらいたい授業に最適です。グループワークで授業を進めるのに、20チームあっても教員1人で回せます。協同学習の要素を取り入れた仕掛けがあるため失敗しにくく、グループワークの経験が少ない教員でも無理なく導入できます。予習が前提で、単位の実質化ができます。何より受講生が元気になり、グループワークのための様々な能力を目覚めさせます。こんな授業を一度体験してみませんか？
	FD	9	クラスルームコントロール	「居眠りをさせないためのコツ」「私語をさせないためのコツ」といった、学生を授業にうまく引き込み、学生のモチベーションを最初から最後まで高く維持するための手法について学びます。とくに、授業の準備段階から、授業開始時、途中、終了時において、段階的に効果的な「しかげ」を活用することで、学生が集中して授業に取り組むようになる手法について、講師の実践例を紹介しながら学びます。

## 平成26年度SPOD内講師派遣プログラム概要(案)

ジャンル	区分	No.	プログラム名	内容概要
授業改善・教授法	FD	9	効果的なeラーニングの活用方法	高等教育機関において、学習効果を上げるための方法としてeラーニングが注目されています。本プログラムでは、「eラーニングを授業に取り入れてみよう」「eラーニングをどのように活用することが有効なのかを知りたい」「自身の授業改善に役立てたい」「どこから始めるとよいかわからない」という方に対して、実際に授業で活用されている様々なeラーニング事例を紹介するとともに、ワークショップ形式にて自身の授業で、どう活用できるかを探っていきます。
	FD	10	基礎から学ぶ学習評価法	本プログラムでは、学習評価の基礎知識である、学習評価の原則、学習評価の公平性、テストの作成法、学習評価の厳密化と効率化のための評価ツール、について学びます。これまでの自己の学習評価方法を見直し、公平性・厳密性と効率性の両方を満たすものにするためのヒントを持ち帰ることができます。シラバスを持参の上参加いただければ、その場でブラッシュアップしていただくことができます。
	FD	11	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うための インストラクショナル・デザイン(ID)入門 ～ARCS動機づけモデルの活用～	本プログラムでは、これまで自身が実施してきた教育に対する考え方や実施方法について見つめ直し、何が課題であるかについて考えるところからはじめ、教育をより効果的・効率的・魅力的にするための方法論であるインストラクショナルデザイン(以下、IDという)の中から、学習者を動機づけするための手法(ARCS動機づけモデル)や学習者の学びを支援するための働きかけに関する理論を事例とともに学び、ワークショップ形式にて課題解決の糸口を探っていきます。
	FD SD	12	<b>NEW!</b> マインドマップ入門講座	マインドマップは、Tony Buzanによって開発された思考手法・ノート術で、記憶力・理解力・集中力・創造的思考力・問題解決力などの様々な能力を高めるとされています。イメージと連想をもとに放射状に思考を広げるところに特徴があり、ビジネスや教育現場において注目されています。本プログラムは、実際に頭と手を動かしながらMind Mappingを体験することを通して、参加者自身の日々の実践へのヒントを持ち帰ることを目的として実施されます。
プログラム開発	FD	13	マンネリ化しない公開授業の秘訣 ～公開授業の効果的実施方法～	公開授業は、日本において最も一般的な授業改善の一つだと言えます。一方で、形式的な実施に陥っている(マンネリ化)という声も聞きます。「やりっぱなし」にせず、効果的に実施するためには、どうしたらよいのでしょうか。またその結果をどのように活用したらよいのでしょうか。本プログラムでは、国内外の様々な事例を紹介しながら、上記の問いを考えていきます。
	FD	14	授業アンケートを見直しませんか？ ～アンケートの効果的実施と活用方法～	授業アンケートは、日本において最も一般的な授業改善の一つだと言えます。一方で、形式的な実施に陥っている(マンネリ化)という声も聞きます。「やりっぱなし」にせず、効果的に実施するためには、どうしたらよいのでしょうか。またその結果をどのように活用したらよいのでしょうか。本プログラムでは、国内外の様々な事例を紹介しながら、上記の問いを考えていきます。開催校のアンケートを持参いただければ、項目の検討を行うワークを入れることができます。
	FD	15	ティーチング・ポートフォリオ入門 ～教育実践のリフレクション～	本プログラムでは、ティーチング・ポートフォリオとは何かについて基本的な内容を学んでいきます。具体的には、ティーチング・ポートフォリオが、教育改善や教育業績評価にいかなる点で役立つかといった必要性と有効性について、また、ティーチング・ポートフォリオ作成のための要点と手順について学ぶ機会を設けています。ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップへ参加予定の先生方は事前準備として活用いただけます。
高専向け	FD	16	高専生を元気にする学生指導法のコツ	成長途上の学生へのサポートでは、人間関係の悩み、保護者との連携、教員間の協同などについて知識と対応のスキルを求められます。学生それぞれに異なる悩みを受けとめ、その成長を支えることは容易ではありません。保護者の価値観は多様で、学校の教育指針と一致しないことも少なくありません。一方、教員間で教育情報を共有し協同することも難しい問題です。それでも、学生はサポートを必要としています。本プログラムは、高専の教育現場で起きている事例について、どう対応すれば適切に学生をサポートできるのか、グループワークによるケーススタディを中心に検討し、広範な学生サポート力の獲得に資するよう展開します。
	FD	17	担任教員に求められること ～担任スキル開発ワーク～	成長途上の学生へのサポートでは、人間関係の悩み、保護者との連携、教員間の協同などについて知識と対応のスキルを求められます。学生それぞれに異なる悩みを受けとめ、その成長を支えることは容易ではありません。保護者の価値観は多様で、学校の教育指針と一致しないことも少なくありません。一方、教員間で教育情報を共有し協同することも難しい問題です。それでも、学生はサポートを必要としています。本プログラムは、高専の教育現場で起きている事例について、どう対応すれば適切に学生をサポートできるのか、グループワークによるケーススタディを中心に検討し、広範な学生サポート力の獲得に資するよう展開します。
	FD	18	<b>NEW!</b> 事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育	学校教育の不調は、時に、強いクレームや裁判として顕在化します。教育活動そのものに問題がある場合、教育活動への理解を得られない場合など様々ですが、いずれも学生・保護者から学校および教員が信頼を得られていないことが最大の要因の一つです。裁判事例をふまえて先行研究を参照しつつ、教育現場の観点から信頼される高専教育のあり方を確認します。あわせて、各高専において、信頼される教育活動を全学的に行うための検証・支援方法について考えましょう。

## 平成26年度SPOD内講師派遣プログラム概要(案)

ジャンル	区分	No.	プログラム名	内容概要
業務改善	SD	19	大学職員のための企画力養成講座	大学職員に必要な能力として「問題発見・解決能力」がよく取り上げられています。本プログラムは、大学改革、業務改善を行っていく上での、「問題発見・解決能力」と「企画提案力」の手法を学ぶものです。このプログラムで身につけた手法や企画書を実際に大学に持ち帰り、上司や大学に提案できるよう、実践に即したスタイルで行います。大学や今の業務に疑問や改善点を持たれている職員の方はもちろん、どうやって見つけたらよいか、提案したら良いのか分からない職員の方もご参加ください。
	SD	20	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	判断・決断は上司や役職者だけが行うものだと思いませんか。実は、若手・中堅職員においても、業務の中で、判断・決断を下さなければならぬ場面は多々あります。 あなたはどのように判断・決断を行っていますか？そもそも、判断と決断の違いとは何でしょうか？また、判断を速やかに行うには何が必要であり、決断を下すには何をもとに行えば良いのでしょうか？判断や決断が速やかな人は好感を持たれますが、その判断や決断が誤っていると信頼を失います。また一方で、決定しやすい判断が良い判断とは限りません。 このように、本セミナーでは、判断力と決断力の違い、それらを効果的に行うために必要な条件を理解した上で、実践トレーニングを行うことで参加者の皆さんの判断力・決断力スキルの向上を図ります。 当日は、レクチャーやグループワーク、ディベートなどを組み合わせ、進めていきます。
	FD SD	21	教職員のためのPowerPoint ～分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方～	使えると便利なんだろうけど、いまいち効果的に使えそうな気がしないよね・・・と二の足を踏んでいませんか？ パワーポイントなどのスライドウェアは授業でプレゼンテーションする教員はもちろん、意外に使えると職員の皆さんにも便利なツールです。何かをプレゼンテーションすることを前提に、一連の流れを体験してみましょう。プレゼンテーションするには構想、資料作成、発表練習の3段階がありますが、あまりにも資料作成に時間をかけるあまり、効果的なプレゼンに結びつかない人が非常に多いです。プレゼンで失敗しないために三つのステップで何をやっておかなければならないか、一度体験してみましょう。
	FD SD	22	<b>NEW!</b> プロジェクト・マネジメント入門	プロジェクトを成功させるためには何が必要か、その基本となる方法論やプロセスを習得することを目指します。 様々な規模のプロジェクトが存在する中、日々の日常的な業務の効率化を図るツールとしても活用できます。プロジェクトを成り行きに任せるのではなく、しっかりコントロールすること、及び終了後のフィードバックの重要性を学びます。部署内、及び部署を横断したプロジェクトが増えていくなか、最終的には、プロジェクトマネジメントを職場で実際に適用するためのポイントを説明できるようになることを目標としています。
人材育成・人事制度	SD	23	スタッフ・ポートフォリオ入門～職員と大学が共に輝くために～	スタッフ・ポートフォリオとは、職員自らがキャリア形成を図れ、組織としてはこれにより職員一人ひとりの可能性や潜在能力を知ることができるツールのことです。本プログラムでは、スタッフ・ポートフォリオの詳しい定義やその有益性を説明した後に、SPOD-SDでの活用例及び愛媛大学での導入例や実際にスタッフ・ポートフォリオを作成した職員の声を聞き、実践例を示します。 スタッフ・ポートフォリオは大学や大学職員人事マネジメントにどのような影響や効果を与えるのでしょうか。また、職員個人にどのような影響や効果があるのでしょうか。さらには、スタッフ・ポートフォリオは簡単に作成することができるのでしょうか。作成する場合に重要なこととは何でしょうか。このような疑問を一つずつ解決できるようなプログラムとなっています。
	SD	24	持続可能なSDプログラムの開発手法	SDとは事務系職員の能力開発活動であり、人材開発から始まって、組織の活性化、組織の業績向上、最終的には大学等の特性として地域の活性化と結びついていくものです。SDには、職場の中で仕事に就きながら仕事に即して教育するOJT(職場内教育)と職場から一定期間離れてまとまった教育をするOFF-JT(職場外教育)があり、意図的、計画的、持続的に実施しなければならない。本プログラムはそのプログラム開発のための手法を学ぶ作業を行います。
	SD	25	人事人材育成ビジョンの必要性	本プログラムは、SPODに加盟する各大学の人事・人材開発の担当職員に対して、各大学にふさわしい人事マネジメントシステムを効果的に機能させ、職員一人ひとりが優れた人材に育っていくための基本的な人材育成ビジョン開発の手法を理解することができます。

## 平成26年度SPOD内講師派遣プログラム概要(案)

ジャンル	区分	No.	プログラム名	内容概要
学生支援	FD SD	26	学習ポートフォリオ入門～学習活動のリフレクション～	近年の大学教育改革において、学びを通じて得た様々な力を可視化するための手段の一つとして「学習ポートフォリオ」が注目されています。学生が在学中に経験したこと、身につけたもの(学習の成果)を紙媒体あるは電子媒体(e-ポートフォリオ)によって蓄積していきます。学生はこの作業によって自らの学びを振り返り、意味づけ、自身の目標ややるべきことを明確にするとともに、就職時などにも活用することが可能になります。教職員にとっては、多様な学修履歴をもつ学生個人々の特性を踏まえて指導にあたることも、対外的な評価に対する教育成果(エビデンス)としても示すことができます。 本プログラムでは、こうした学習ポートフォリオの概論(特徴や事例等)を踏まえて、所属組織において望ましい学習ポートフォリオの作成や活用方法について共に深めていきたいと思ひます。
	FD SD	27	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	学内での学生活動の中心となるリーダー育成や学生同士によるピア・サポートが新たな学生支援として注目を浴びています。四国内でもそのような取り組みが盛んにおこなわれており、それらの事例と教職員がどのように関与していけば良いのかのコツの紹介を複数大学の事例紹介を織り交ぜながら進めます。必要に応じ、取り組みに関与している学生の生の声も聞けるようにいたします。教職員だけでなく、学生を巻き込んだ総合的な研修となっています。
IR	FD SD	28	教育の質保証と学習成果アセスメント	学習成果測定は、教育の質保証に関する国際的動向の中で喫緊の課題として注目されています(例えば、OECDのAHELO等)。国内では中教審による「学士力」や日本学術会議による「分野別の教育課程編成上の参照基準」等が提起され、急速にアウトカムに基づく学士課程教育の体系化が求められています。しかし、国内外ともに学習成果の測定は概念の曖昧さも含めて十分に議論や実践が成熟しているとは言えない状況です。同時に、その測定方法も多様で、唯一の解は存在しません。そこで、自らの所属する機関の特性・文脈を踏まえつつ、学生調査などを始めとして様々な観点から学習成果の測定に関する多様な実践を蓄積し検証していく必要があります。 本プログラムでは、そうした学習成果測定をめぐる議論を概観し、いくつかの事例やワークを踏まえて、所属組織において望ましい学習成果測定の手段や活用方法について共に深めていきたいと思ひます。
事例紹介	FD	29	学生が輝くFDの実践事例	本プログラムでは、FDの意義・定義、歴史・国際動向、FDの取組み事例、推進する上でのコツを説明します。また国内外の優れた取組み事例、組織体制を紹介します。希望に応じて所属機関のFDに関するコンサルティングやニーズ分析を行います。本格的なFDの取組みはこれからという導入時期に最適なプログラムです。
	SD	30	職員が輝くSDの実践事例	SDを担当する者にとって、職場内能力開発の基本的な知識が必要です。しかしながら、高等教育関係者がこうした基本的な内容を学ぶ機会は限られています。そもそも職場における能力開発は何のために行うのか。どのような類型があるのか。企画、実施、評価というサイクルをどのように回していけばよいのか。そして、機能的な能力開発組織をどう構築したらよいのか。こうした基本的内容を学び、日々の実践を見直します。 本プログラムでは、機能的な能力開発組織(SD担当部局)の事例や、組織的な能力開発体系の事例も学びながら、高等教育機関において、どのように組織的に能力開発を進めていけばよいのかを考えます。
	FD SD	31	FD・SDを効果的に進める組織づくり～事例紹介とお悩み相談～	FD・SDの現状と課題に関する情報交換、成功事例の紹介等を行いながら、開催校の事例紹介を基に、FD・SDを効果的に進めるための相談に柔軟に対応します。FD・SDに取り組んでいるがマンネリ化してきた、担当者が行き詰っているなどの課題がある場合に、最適なプログラムです。教職員全員を対象とするよりも、管理職やFD・SD担当者等との小規模のディスカッション形式が向いています。

## 平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」

### 活動報告書（冊子版）構成（案）

はじめに → 企画・実施統括者（愛媛大学 小林教授）

1. 会長挨拶 → 会長（愛媛大学 柳澤学長）

2. SPOD事業の概要 → SPOD案内チラシ

3. 平成25年度事業計画 → SPOD事業計画

4. 平成25年度全体総括 → 全体総括，実施内容／成果

5. 平成25年度活動実績

（1）FDプログラム → 実施日程，実施場所，主催，受講者数

新任教員，プレFDプログラム，FDer，ティーチングポートフォリオ，新規プログラム

（2）SDプログラム → 実施日程，実施場所，主催，受講者数

SDプログラム，スタッフポートフォリオ

（3）SPODフォーラム → SPODフォーラム2013の概要，チラシ，

シンポジウム内容，受講者数，アンケート結果

（4）SPOD共通事業 → SPOD内講師派遣の概要，実施状況一覧，

研修プログラム一覧，遠隔システム配信校一覧

調査研究プロジェクトの概要

（5）SPOD運営 → 会議開催日程

6. 平成25年度各加盟校の取組報告

7. 平成24年度事業評価委員会からの事業評価について → 評価とその対応，要項，名簿

8. 平成26年度事業について → 平成26年度SPOD事業計画（案）

参考資料 ・ネットワーク規約，役員名簿

## 平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」 活動報告書（HP掲載用）構成（案）

はじめに

1. 会長挨拶
2. SPOD事業の概要
3. 平成25年度事業計画
4. 平成25年度全体総括
5. 平成25年度活動実績

### （1）FD事業

①新任教員及び大学院生，ポスドク向け標準的（プレ）FDプログラムの開発，実施

- ・新規採用教員研修（5回）  
→基準枠組対応表，新任教員研修（5回）の実施要項，アンケート結果
- ・プレFDプログラム
  - ・ファシリテーション力養成道場（2回） → 実施要項，アンケート結果
  - ・TA講習（1回） → 実施要項，アンケート結果

②FDerの養成

- ・FDファシリテーター養成研修（1回） → 実施要項，アンケート結果

③教育業績記録（ティーチング・ポートフォリオ）の開発

- ・ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（3回）  
→TPWSの実施要項，アンケート結果（3月開催の分は実施要項のみ掲載）
- ・ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ（1回）  
→TPWSの実施要項，アンケート結果
- ・アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ（1回）  
→APWSの実施要項，アンケート結果

④各種FDプログラムの体系化・標準化に向けた開発，実施

- ・教育改善のためのIR入門ワークショップ → プログラム概要，アンケート結果
- ・評価対応のためのIRシステム形成とその課題 → プログラム概要，アンケート結果

### （2）SD事業

①SDプログラムの開発，実施

- ・講師養成プログラム（2回） → 実施要項，アンケート結果

- ・ 大学人・社会人基礎力養成プログラム(レベルⅠ～Ⅲ)(4回)→ 実施要項, アンケート結果
- ・ 学務系職員養成プログラム(レベルⅠ, Ⅱ)(2回) → 実施要項, アンケート結果
- ・ 社会連携系職員養成研修(1回) → 実施要項, アンケート結果
- ・ 国際連携系職員養成プログラム開発ワークショップ → 実施要項, アンケート結果
- ・ 次世代リーダー養成プログラム(8回) → 実施要項
- ・ 高等教育トップリーダーセミナー(1回) → 概要, アンケート結果

②職員業績記録(スタッフ・ポートフォリオ)の開発

- ・ スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ(1回) → 概要, アンケート結果

(3) SPODフォーラム

(4) SPOD共通事業

① SPOD内講師派遣(加盟校単位 各1回 計22校)

→アンケート結果(受講者), アンケート結果(担当者, 2月末まで依頼)

② 調査研究プロジェクト → プロジェクト報告

(5) SPOD運営

① 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会, FD/SD分科会

→総会及び分科会の実施要項

② ネットワークコア運営協議会 → 議事概要

③ 各県内加盟校会議 → 議事概要

6. 平成24年度事業評価委員会からの事業評価について

7. 平成26年度事業について

※1～4, 6, 7は冊子版と同内容

## 平成25年度 FD/SD活動の取組報告書（案）

学校名： 学校名を記載してください。

**【平成25年度の教育改革に関わる動向】**

平成25年度の貴学におけるFD/SD活動について総括コメントを記載してください。

**【FD/SDの取組事例ハイライト】**

平成25年度に実施したFD/SDの取組事例について記載してください。

事例については、SPOD事業に関するものでも、貴学独自の取組でも構いません。

事例数に特に制限はありません。

**【成果及び波及効果】**

FD/SDの取組成果及び成果に関する情報の公表（手段・媒体）について記載してください。

**【FD/SDに関わる次年度の課題】**

平成25年度の取組内容を振り返り、次年度の課題や目標を記載してください。

※報告書はA4用紙1枚を目処に作成してください。

なお、補足資料がある場合は、別途添付してください。

※写真等の添付は必要ありません。

※上記4項目について記載していただければ、内容や書き方は自由です。

=====

※本報告書は平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」活動報告書に掲載すると共に、同ネットワーク総会及びFD/SD分科会の資料として、関係者に配付する予定です。

=====

平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会  
及びFD／SD分科会 実施要項（案）

- 主催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）  
日時：平成26年3月下旬 13：30～16：30  
場所：（総会）愛媛大学城北キャンパス南加記念ホール  
（FD／SD分科会）愛媛大学城北キャンパス愛大ミュージアム  
出席者：（総会）加盟校各大学長、短期大学長、高等専門学校長等  
（FD／SD分科会）加盟校 FD／SD担当者等

【総会】

- 13：30 開会挨拶 SPOD会長：愛媛大学長
- 13：35 平成25年度の「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業の実施状況について（25分）
- 14：00 平成26年度の「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業の運営について（30分）
- 14：30 質疑応答（30分）
- 15：00 閉会

【FD／SD分科会】※FD分科会及びSD分科会を2箇所で開催

- 15：30 各加盟校での取り組み状況の報告  
今後の具体的な事業の進め方について  
意見交換 など
- 16：30 閉会

## 平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)

## 事業評価委員会実施要項(案)

## (趣旨)

平成25年度における「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(ネットワーク略称=SPOD)」の活動内容や前年度の評価委員からの指摘事項に対する改善状況について、実績報告書をもとにSPOD事業評価委員会委員から評価を行っていただき、今後の事業推進に役立てる。

## (主催)

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

## (日時)

平成26年3月(3時間程度開催予定)

※各委員との日程調整後、正式に決定する。

## (場所)

愛媛大学城北キャンパス愛大ミュージズ(松山市文京町3番)

## (参加予定者)

SPOD事業評価委員会委員

沖委員(立命館大学), 各務委員(順天堂大学), 栗田委員(東京大学),

田中委員(九州大学), 福島委員(追手門大学)

SPOD関係者

ネットワークコア校のSPOD-FD/SD担当者

## (事務担当)

愛媛大学教育学生支援部教育企画課(SPOD事務局)

## 第20回授業デザインワークショップ事後アンケート結果(回答者数:24名)

平成25年7月6日(土)~7日(日)久万高原ふるさと旅行村

【設問1】本ワークショップの参加の経緯についてお答え下さい

【1-1】ワークショップへの参加動機は何ですか(複数選択可)

1. 実施要項を見て内容に興味をもったため	7	29.2%
2. 所属部署からの依頼があったため	5	20.8%
3. 他大学・他部署の人と交流したため	1	4.2%
4. 新任研修に参加して興味をもったため	2	8.3%
5. テニユア・トラック必須EDプログラムだから	11	45.8%
6. その他	2	8.3%
合計	28	

【1-2】1-1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

新任教員全員必修だと思った

今年度は参加可能な日程だったから

【1-3】ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した

1. そうである	12	50.0%
2. どちらかといえばそうである	11	45.8%
3. どちらかといえばそうではない	1	4.2%
4. そうではない	0	0.0%
合計	24	100.0%

【設問2】本ワークショップの内容についてお答え下さい

【2-1】ワークショップの目的は、明確に設定されていた

1. そう思う	21	87.5%
2. どちらかといえばそう思う	3	12.5%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	24	100.0%

【2-2】ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

1. そう思う	18	75.0%
2. どちらかといえばそう思う	6	25.0%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	24	100.0%

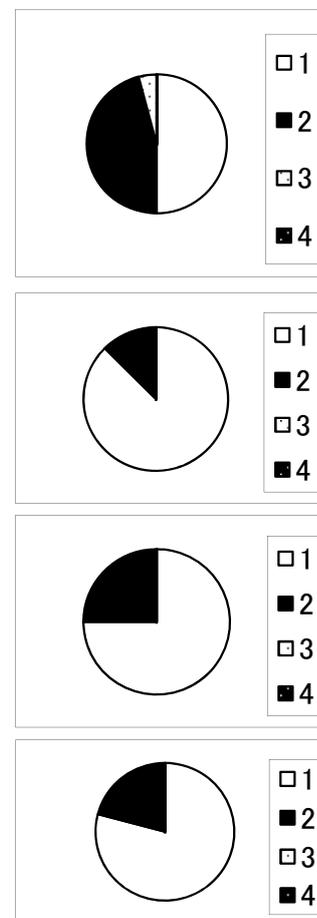
【2-3】ワークショップは、わかりやすい順序ですすめられていた

1. そう思う	19	79.2%
2. どちらかといえばそう思う	5	20.8%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	24	100.0%

【2-4】ワークショップでよかった点は以下のうちどれですか(複数選択可)

1. シラバスの書き方についての理解が深まった	23	95.8%
2. 「何が学生の学びを促進するのか？」(浅い学習と深い学習)について考える機会を得た	11	45.8%
3. 複数の授業方法について知ることができた	20	83.3%
4. 成績評価についての理解が深まった	13	54.2%
5. 自らが開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	7	29.2%
6. ワークショップの手法を知ることができた	5	20.8%
7. 他学部等の教員と知り合いになれた	17	70.8%
8. その他	2	8.3%
合計	98	

【2-5】2-4で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

今の時代の様々な手法を知った上で、自分らしい授業方法について振り返り、考える機会を得た  
講義をする上での初心に立ち返ることができた

【設問3】本ワークショップに参加しての成果についてお答え下さい

【3-1】ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか<複数選択可>

1. 適切な目的・目標設定ができるようになるようになった	14	58.3%
2. わかりやすいシラバスを書けるようになるようになった	16	66.7%
3. 深い学び・浅い学びについて知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	9	37.5%
4. 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる	17	70.8%
5. 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	6	25.0%
6. 学生参加型のグループ作業を、自ら授業で導入することができるようになった	9	37.5%
合計	71	

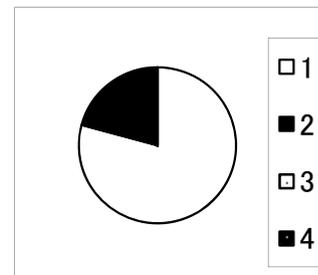
【3-2】ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい(200字~400字程度)

→別添資料参照

【設問4】本ワークショップの研修環境についてお答え下さい

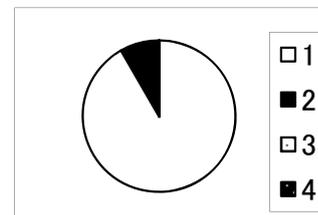
【4-1】講師の言動は学習意欲を高めた

1. そう思う	19	79.2%
2. どちらかといえばそう思う	5	20.8%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	24	100.0%



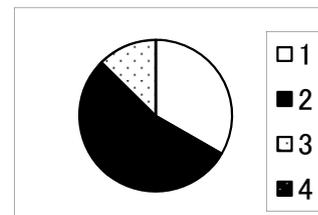
【4-2】事務局は手際よくワークショップを運営していた

1. そう思う	22	91.7%
2. どちらかといえばそう思う	2	8.3%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	24	100.0%



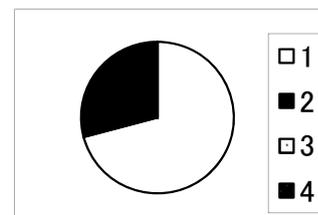
【4-3】ワークショップ会場は快適な環境であった

1. そう思う	8	33.3%
2. どちらかといえばそう思う	13	54.2%
3. どちらかといえばそう思わない	3	12.5%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	24	100.0%



【設問5】本ワークショップは全体を通して満足できるものであった

1. そう思う	17	70.8%
2. どちらかといえばそう思う	7	29.2%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	24	100.0%



【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

→別添資料参照

【3-2】 今回のワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)

ワークショップで学んだ点	教育実践の場でやってみたい点
<p>ワークシヨップで学んだ点 シラバスの書き方に新しい情報を取り入れることの重要さ</p> <p>・講義計画(シラバス)を作成する上で重要な点を学ぶことができた。・グループワークや質問の効果的な導入方法を具体的に学ぶことができた。・学生へのフィードバックの重要性を知り、その方法について具体的に学ぶことができた。</p>	<p>アイスブレイク</p> <p>・現在受け持っている講義は毎回の講義始めに前回の内容の小テストを行っているが、学生へのフィードバックを単に回答だけで無く、理解度を補うためにも使用してみたいと思う。具体的には設問の正解率の低かった内容について、次の講義を始める前に復習の項目としてみたい。</p>
<p>これまでシラバスの書き方を全く知らなかったため、その書き方の具体的な指針を学べた。到達目標を具体的な言葉で設定することで、自分の授業の目的がよりはっきりしたものになり、学生に何を学んでほしいのかが伝わりやすくなるのがわかった。授業にグループワークを取り入れたりする時に、授業の受講者人数を考慮して授業を組み立てるのが重要であることがわかった。授業の方法には、クリッカーやミニツペーパーなど多様な方法があり、それを組み合わせることで学生を授業に集中させることができることを知ることができた。</p>	<p>このワークショップで学んだことを活かして、具体的に到達可能な目標を設定したシラバスを書いて、学生に自分の授業の目的が伝えられるようにしたい。ミニ授業で指摘された点(テンポや話し方)を改善して授業を行いたい。講義ではクリッカーを使ってより学生が授業に参加できるようにしたい。実習ではパディメソッドを使って、学生同士ができるだけ自ら問題や疑問を解決できるようにしたい。</p>
<p>①クラスの大きさや学生の興味に応じた教育方法の具体例。②シラバスの目標・目的を他者とともに吟味することは、学生のよりよい学びにつながるだけでなく、それを通して自分が何を教えたいのかを明確にする作業でもあること、③実際の授業を行うことで、無意識の癖や自明な前提に気づくことができること</p>	<p>授業案をつくる時に環境構成も書き入れたい(授業準備をより深めるために)。ジグソー法などグループワークの様々な方法を取り入れたい。他の教員とともに指導案やシラバスを検討する機会を設けたい。</p>
<p>・楽しく授業に参加してもらうこと・深い学びのあった授業だと実感してもらうには、自分たちで考える時間が十分にあることが重要だということ・楽しく授業に参加してもらうには、教える側も楽しんで授業をしていることが大切だということ・アイスブレイクはこれまでなんとなく必要だなど感じていたが、その大切さを再認識した。アイスブレイクにもっと時間をかけても良いのだと思えるようになった。・クリッカーや、授業新聞等、コミュニケーションツールがたくさんあること</p>	<p>・授業ははじめのアイスブレイクをあらかじめ計画し、丁寧に実施する。・授業は15分ぐらいずつで区切り、学生を飽きさせないようにする・授業の際には学生同士で考える・ディスカッションする時間をできるだけもうけるようにする・こちらでも楽しんで授業をする・必ずフィードバック用にコミュニケーションカードを用意する・できれば、クリッカーやスマートフォンのそのようなソフト等使用してみたい。</p>
<p>①授業において、一本調子な話し方はNGである②テーマ全体のフロー図と、関連するキーワードを板書することは重要③いきなり難しい(理解困難な)サンプルを示して、次に、平易なサンプルを示すと聴衆は食らいつく</p>	<p>①授業において話をするときには、「抑揚、強弱を付ける」、「スピードに変化を持たせ、溜め(間:マ)を作る」、「問いかけや確認を合間に行う」を忘れずに心がけたい②大きめの文字サイズで講義内容のフローとキーワードを板書しておき、授業中はそれを指し示しながら、現時点でフローのどの部分に位置して、どのキーワードについて解説しているかを確認する。③”つかみ”に適した映像を授業序盤に導入したい</p>
<p>・浅い学習と深い学習について知ることができた。・これまで意識していなかったシラバスの重要性を認識した。・様々な授業方法について知ることができた。・自分の教育意識について、振り返って考える機会となった。・教育企画室の教員との交流を通して、その思いの一部を知ることができた。・研究室の立ち上げ中の現時点で導入を考えていた研究手法について、その分野の同世代・他学部の教員と思いがけず知り合うことができ、共同研究に繋がりがちな情報交換ができた。</p>	<p>・担当する講義の中で「浅い学習」と「深い学習」について意識し、学生にとってそれぞれの学習項目が「深い学習」に繋がるように工夫したい。・シラバスを「契約」や「質保障」という考え方に立って作成したい。・講義の中でコミュニケーションカード(赤と青の色紙)を取り入れて、双方向の情報伝達が行われていると学生が感じられるように工夫したい。・授業を実践する中で具体的な工夫や、困ったことなど、機会があるときに教育企画室の教員と相談や議論を行ってみたい。・今回知り合うことができた他学部の教員の方の協力を得て、学生の卒業研究・修士研究内容に新たな研究手法を組み込みみたい。</p>
<p>グループワーク等、現実的に専門授業で利用するには難しいと感じる授業方法もありましたが、逆転授業は、専門授業にも取り入れられるかと思えます。</p>	<p>逆転授業</p>
<p>効果的な講義の進め方。10分というミニ講義であったが、同様な立場にある教員からコメントが「その場」でもらえ、とても有意義でありました。またコメンテーターからも、講義一般に関することでは、臨場感を大事にすること、テクニカルなこととして「返答を期待しない質問をする」、問合いについてなど、極めて実際の講義に即したアドバイスを受けることが出来、良かったです。大人数講義での評価法について、レポートを課す場合にはパーソナルなことを盛り込むこと、など具体的なアイデアをもらうことが出来、今後の参考としたいです。シラバスの作成について、シラバスは教員と受講者との契約書であり、分かりやすく、具体的に書く必要があり、また評価方法は明確にする。ルーブリック評価なども、単に教員側の基準というわけではなく、先に提示することで、受講者側も何をすればよいのか明確になるのは、お互いにとって良い手法と思いました。</p>	<p>どのような人数の講義であっても、インタラクティブな内容に心掛けたと思います。また具体的ですが、愛媛大学の実情に即したことも盛り込んで行ければと思います。緩急の付け方、についても実践出来ればと考えています。プリントを配布するにしても、開始時に渡すのではなく今回のワークショップで行ったように、効果的なタイミングがあり、今後、良く練っていきたいです。</p>
<p>・シラバスを書く上での考え方が良く理解できた(従来が抽象的すぎたことが分かった)・学生の集中力などを考えた上での授業の構成、様々な授業法の選択が重要であることが分かった・インタラクティブな授業が有効であることを実感できた・大人数の講義においても「考える時間」を与えることで、少人数で可能な質問/回答のやりとりと似たような効果が期待できることがわかった・受講学年/ニーズと講義内容のマッチングがとても重要であることを感じた・講義における話し方にメリハリが必要だと実感できた</p>	<p>・グループである到達目標へのみずすじを考慮してもらうなど、実習の進行にも導入してみたいと思った・実習初回での効果的なアイスブレイクを考えたい。実習ではグループ実験がメインなので、良好なグループ内の人間関係を形成し、有意義な実習を行ってもらえるよう、こちらから積極的に関わっていききたい</p>
<p>シラバス作成の重要性を再認識しました。学生の学習意欲を増やすための多くの授業方法が存在するが、教員が、学生に伝えたいこと、伝えるべきことを明確にしていなければ、結局のところ、学生には何も響かない。シラバスは、学生の授業選択における重要参考資料であるだけでなく、教員が学生に伝えるべきメッセージを明確にするという意味においても、重要な存在であることを感じました。</p>	<p>本ワークショップで得た経験を今後のシラバス作成に役立てたいと考えています。また、教えて頂いた授業テクニックを用いて、深い学びのある授業を展開してみたいと思います。</p>
<p>受講生の興味を持つようにすることや、グループワークなどの様々な授業形態を取り入れることで、受講生が授業に参加し、記憶に残る授業をすることができる。また、学生の集中力を持続させるために、時間を細かく区切り、飽きさせないようにする。シラバスを作成する段階で、授業内容について考え、まとめることで、受講生に授業の目的、目標を明確にでき、授業でも受講生に内容が伝わりやすい。また、受講生の人数によって授業の進め方を変えるなど授業をする上での工夫が受講生が授業に参加するときに必要である。</p>	<p>ミニ講義を行って、自分の問題点(自信がない、声が小さいなど)がはっきりし、今後の授業では改善していきたい。これまでの授業では、こちらから話をしてばかりだったので、受講生同士のコミュニケーションや、質問、コメントなど受講生が参加する授業を行って行きたい。評価にルーブリック評価を取り入れて、教員間、年度間での評価に差がつかないようにしていきたい。授業の後は、自分の授業内容について評価をして、次の授業に生かしていきたい。</p>
<p>理系の授業の組み立て方が文系と異なる。学生も理系の授業に慣れていないような人には気を付けよう。</p>	<p>クリッカーをつかったアンケート</p>

ワークショップで学んだ点	教育実践の場でやってみたい点
<p>今まで授業を聞く側の立場であったので、授業を組み立てる一連の流れを体験したことで考慮しなくてはならない点、授業開講までのプロセスが学習できたと考えております。特に、シラバスは最低限の授業内容と評価基準(例えば、テスト〇〇%…)を書いておくだけでよいと考えていました(今まで学生としてそれをたくさん見てきた)ので面食らいました。シラバスの重要性を認識できたので、よい機会であったと思います。今回のワークショップではある程度講義経験の積まれた先生方の模擬授業を拝見することができ、学生が授業に興味を抱くための様々な工夫(例えば、学生が答えられないような答えを用意して、それに驚いた学生を誘導するなど)を持ち帰ることができました。</p>	<p>早速、今年度から実験レポートの評価にルーブリック評価を導入することとしました。来年度からはその評価基準も学生に明示したいと考えております。アクティブラーニングを促す手法を様々な紹介していただきましたが、これらの手法は研究室のゼミでも導入できると思われるので、まずゼミでどのような効果があるか試してみる予定でおります。最終的には、講義法が主流になっている専門科目に導入できればと考えています。また、今回学んだシラバスの作成方法のうち、“この授業の意義は？”を伝えることに念頭に置いて作成してみたいと思います。</p>
<p>・シラバスの立て方、授業計画書の書き方が、今までは漠然としか分かっていなかったが、ワークショップに参加することによって、理解できた。・さまざまな授業の小技を知ることができ、非常に有意義だった。・2日間、異なる分野の先生方と共同の作業で授業を作ってゆく過程で、自分では思いつかなかった観点やアイデアを共有できたことも、とても有意義だった。</p>	<p>・メリハリをつけたテンポのよい話し方ができるように、声のトーンやスピード、間合いの取り方、などに気を付けて、WSで学んだことを実践してゆきたい。・講義における小技のうち、EQカード、大福帳タイプのミニッツカード、Yes/Noカード、クリッカーを、今後の講義で使ってみたい。</p>
<p>今回のデザインワークショップでは、授業に大切な基礎知識の習得、かつ有効に利用する方法をグループワークを通じ、話し合いたくさんのいいアイデアが出たと思います。また、他のグループの発表を聞くことにより考え方の違いやグループでの個性がでておりうなずかされるのが非常に多かったです。実際に体験してグループで作業をすれば、個人ではなく相手のことを考えた行動、発言が本質として要求されてくることを知り、学生自身が抗議への興味と積極性を生み出してくれるのではないかと、肌で感じました。</p>	<p>ミニ講義のいい評価改善すべき点についてはこれからの講義に活かしていきたいです。</p>
<p>私自身は、正式な講義を行ったことがない、まさに0からのスタートでした。当然、シラバスも作った経験はなく、その重要度もわかっていませんでした。今回の研修では、シラバスの意義や重要性、具体的なルールを明示したシラバスの作り方などを学ぶ事ができました。講義経験0の私にとっては、大変貴重な経験となりました。また、私が参加したグループには、講義の経験が豊富な方が多く、直接自分が疑問に思っていること、わからないことなどをじっくりと質問することができたことも、貴重な経験の一つであったと思います。</p>	<p>今回、いろいろな講義のやり方があることを学びました。今までは、パワーポイントスライドをのみで、壇上立って生徒に向かって話をするというのが、わたしの講義に対する認識でした。しかし、今回の研修で、いろいろな講義のやり方があることを学びました。これから、試行錯誤しながら、自分にあった講義方法をまずは見つけ、いずれは学生や、授業科目に応じて臨機応変に対応していけるように頑張っていきたいと思っております。現時点では、生徒との対話を多めに取り入れたインタラクティブ型の講義方式に興味を持っていますので、まずはそれについて勉強していきたいと考えています。</p>
<p>共通教育科目に関する講義の目標設定からシラバス作成、最終的な評価方法の決定に至るまでの過程は全くの未経験であったため、それらの具体的な方法を学習できたことは、今後の自らの授業デザインから実施に至るまで大変役立つ経験となった。また、出身学部異なるメンバーで構成されたグループワークでは、様々な考え方の違いなどを習得できたほか、新たな人的交流も生まれ、有意義な時間を過ごす事ができた。</p>	<p>今回のワークショップにおける経験を通じて、今後、実施してみたいと考えている内容は、逆転授業やPBLを活用した学生参加型のグループ作業を主軸とした講義である。講義法のみでは学生自身のモチベーションを高めることに限界があるため、色々な講義方法の組み合わせにより、学生が自ら学ぶ意識と問題発見・解決能力を習得できるように工夫したい。また、内容が類似する専門科目の担当者間によるグループワークを通じて、各科目のシラバス内容の再検討を実施すべきであると考えている。</p>
<p>シラバスの構成および内容について基礎的な知識を得られた。授業を行う際には、学生、事前準備、口癖のチェック等事前・事後の準備と振り返りを行いたいと思う。今回のワークショップでは、自分たち自身がグループワークを行う構成になっていた。そのため、グループで行うことによって知見が深められたことも体感できたことは、今後の講義等でも役立てられると感じている。</p>	<p>今後、講義を担当するようになった場合には、逆転講義やバズ・セッションを取り入れるなど、学生にきちんと理解してもらえるように工夫していきたい(発話・クリッカー・質問)</p>
<p>・アイスブレイクの意味→緊張していたら学びが入ってきにくい。・シラバスが、講義全体の流れと評価にまで関連していること。・自分の講義の良い点と改善点</p>	<p>・ご指摘いただいた、私の講義の改善点を修正すること。具体的には、学生が書いている間は黙って待つこと、声のトーンと内容にメリハリをつけること。・ルーブリック評価を取り入れる。・EQトークを取り入れた講義(本日、演習時にしてみました。他の班の発表を褒めよう！質問しよう！と、聞く学生の集中力が非常に高く驚きました。学生は楽しんでいましたし、「いいね」がもらえることを喜んでいました。継続していきたいです。</p>
<p>シラバスを短時間で作ることを通して、学生に何を伝えたいのか、言葉を選び、ポイントを明確にすることの必要性を感じた。模擬授業や、シラバスの中間発表では、スタッフの先生方や他の参加者の意見がとても勉強になった。</p>	<p>学生の集中力は15分という原理を念頭に授業を組み立てるなどを意識し、ルーブリック評価等も取り入れていきたい。</p>
<p>当日語られた表現とは異なるかもしれないが、理性の前に感性の次元で学生のなかに準備態勢が出来ていないと、授業の活性化は上がらないと感じた。またマクロの次元とミクロの次元は基本的に同じ構造であり、つねに全体あつての部分、部分あつての全体という相互関連性があることも理解できた。さらに、「高齢」になっても学ぶことはあるのだという、世間でよく言われる事実も再確認できた。</p>	<p>今後やってみたいことは、模擬授業で指摘された点を改善すること。またシラバスで受講生を絞るため過剰に難解に記述していたが、その点はもうやめようと思った。</p>
<p>本ワークショップに参加して、グループワークの導入事例を深く知ることができた。これまでは概論や一般教養科目では、グループワークのような学生参加型の講義形式は困難だと決めつけて敬遠していたが、今回のワークショップを通していかようにも導入することができるということに気付かされた。今後は積極的に取り入れていきたい。また、成績評価とそのフィードバックの方法について知ることができたのは大きな収穫であった。特にREASの存在を知ることができたのは良かった。大人数対象講義ではミニッツペーパーを回収してチェックするだけで大きな負担となる為、なかなかフィードバックするという点までは難しかったが、授業新聞のような形式でフィードバックするという方法と連動させることで、教員側の負担の軽減、学生へのエンカレッジ双方に寄与する非常に優れた方法であると感じた。是非今後の授業で活用させていただきたい。</p>	<p>今回のワークショップ全てを通して、スタッフの先生方が常に参加者の言動を肯定的に評価してエンカレッジしようとしていた。この姿勢は今後の教育生活では是非見習わなければならないと強く感じた。また、他大学の参加者と実際にグループワークを通して接することで、専門領域の違いにおける着眼点の相違や考え方の相違を知ることができた。さらに、自分自身が学習者の立場になることで、実際にグループワークに必要な時間や留意点を体験することができた。これらの「学び」を全ては無理でも、実施可能なことから実践していきたい。</p>
<p>ワークショップでは、大学の授業をどのように組み立てるのかについて、学びました。シラバスの書き方に関するレクチャーを通して15回の授業の流れはもちろん、1回分の授業の組み立て方についても、他教員と意見交換を行いながら、改めて整理を行うことができました。</p>	<p>他教員の授業風景を10分程度でしたがかいま見ることができて、自分自身の授業に活用したい技を多く盗むことができました。非常に内容の濃い、感動体験の豊富な2日間でした。</p>

【設問6】 本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

大変勉強になりました。ありがとうございました。
合宿という逃げられない環境でのこのようなワークショップは、腰を据えて取り組むことができるということからも、これからも続けて欲しいと思います。
一泊二日でこなすにはなかなか大変なワークでしたが、授業をするための授業は、大学教員、特に、理系教員には少ないと思いますので、とても役に立ちました。新任教員だけでなくベテランの教員の方々にも役に立つのではないかと思います。また、他の大学でもこのようなワークショップがどんどん開催されれば、日本の大学教育のレベルが上がっていくのではと期待します。
①今回は、学生にとってわかりやすかったり、興味をもてたりする授業を作成することがメインだったように思われる。いわば、方法に焦点があわせられていた。しかし、シラバスを作成するにあたっては、何を教えるべきなのか、自分は何を教えたのかといった、目的に関わる側面も重要になってくると思われる。模擬授業をつくるときには、そうした側面も議論されていたように思う。目的を方法と絡めながら高めあう話し合いのツールがあれば教えてほしい。②シラバス作成では、到達目標を行動や計測可能な形式に還元することが求められていたように思う(教育工学?)。しかし、それらには還元できないものもあるのではないかと、疑問に感じていた。たとえば、「ロシア語の日常会話を楽しむことができる」を書き換えるとき、教師が「楽しんでほしい」と学生に願ったことはどうなるのか、と考えた。抽象的であっても教育実践を支えているような理念や目的を、どのように具体的な到達目標に落とし込んでいくのか。このあたりについて、話し合いができてたらより楽しかった。とはいえ、個人的にはとても勉強になりました。
内容(題材)は問題ありませんが、時間構成は余裕が無いですね。講師側も受講者側も大変ですね。
今回のワークショップを通して、他大学・他学部の研究者の方で、同じワークグループ・模擬授業グループの中で、共同研究に発展できそうな方に出会うことができました。思いがけず研究上の情報交換が行えたことが研究者としては今回の一番の成果とも思います。ただ、同じグループになっていなければそのチャンスを逃していた可能性が高いので、参加者名簿に、所属に加えて、専門と研究上の興味について、事前アンケートを取って明記してあればもっとチャンスが生まれるのでは、と思いました。
土日がつぶれるのは辛いです。
このワークショップは回数を重ね、洗練されており、とても勉強になりました。実際に参加してみて、いろんなバックグラウンドを持った先生方と知り合い、話が出来たことは非常に貴重な体験です。講義経験の浅い自分にとって、ワークショップで学んだことはすべて有意義な内容であります。今後の講義の活かしていきたいと思います。ご関係の先生方、ありがとうございました。
タイムスケジュールも、集中して取り組むためにもちょうど良い長さだったと思います。当分授業の担当予定が実習だけなので、講義を担当する直前に受けたかったとも思いました。
一日半という短い間でしたが、非常に中身の濃いワークショップでした。これまで交流のなかった他学部や学校の人たちと、意見を交わしながら一つの授業を作るという貴重な体験ができ、授業を作ることの難しさ等を学べたと思います。今後教員として授業を作り、行うときにいろいろな手法を取り入れていきたいと思います。ありがとうございました。
本ワークショップはスタッフの皆様がシラバス作成から模擬授業まできっちりレールを敷いてくださっているの、不安になることはないというアピールをされてもよいかと思えます。余談ですが、初心者には「模擬授業」の4文字を見ると特に不安になります。
・スタッフの皆様、2日間お世話になりました。ありがとうございました。タイトなスケジュールでしたが、スタッフの皆様のお陰で、2日間ともに、快適に、WSIに集中することができました。・2日目の10分間ミニ授業では、非常に緊張してしまい、自分なりに敗因を分析してみると、講義のイメージを十分に作りこめていないことが緊張の原因になったと思う。この反省を生かし、お陰様で後日の講義では、リラックスして講義できたと思う。
もう少し時間のゆとりがほしかったです。
プログラム自体については満足していますが、スケジュールがかなりタイトに感じました。1日半ではなく丸二日などに時間をのばすと、余裕を持ってじっくりと研修に専念できるのではと感じました。
全体的に少しタイトな時間設定であったかなと感じました。参加者全員が交流会の時間をたっぷり取れるような時間設定であれば良かったなあと思います。

いろいろなところに配慮いただいたプログラムだと感じました。1泊2日という合宿型だとグループメンバーとの「決断力」が生まれたように思います。今回はどのグループも最初から打ち解けていた感じでした。そのため、ワークにもスムーズに入り込めたように思いました。最初のアイスブレイク等プログラムの構成の重要さを感じました。

内容についてはとても準備され、よかったと思います。模擬授業を畳の部屋でするのは、個人的にはつらかったです。

今回は新任教員向けのワークショップだったが、愛媛大学の「ベスト教員」による授業を受ける機会があってもよい。本来は校内で実施すべきFD活動だろうが、なかなか他の教員の授業を参観することには心理的抵抗が否めないため、あえてこうした機会を設けることもよいだろう。すでに実施されているのならば、的外れの意見となり、申し訳ないしだいである。

- 1.成績評価の方法に関して、ルーブリック評価の存在は知っていましたが、実際私自身もレポート評価では導入してきました。ただ、論述形式ではない課題に対する、この手の効果的な評価方法がもっと知りたかったです。
- 2.既に講義を担当している参加者も多数いるかと思しますので、希望者だけでも当該年度に作成したシラバスを事前に送付し、添削していただける機会があると良いかと思えます(あるいはそれを教材として参加者が直す)。
- 3.初めて講義をするという参加者も散見されましたので、時間的な問題もありますが、模擬講義のお手本として悪い例(もちろん演技です)、良い例を見る機会を設けて頂くと良いかもしれません。
- 4.ワークショップの本質とは無関係なのですが・・・、宿泊施設には「シャンプーも石鹸も何もない」ということを「実施要項」に明記しておいた方が良いかもしれません。もちろん、事前にいただいた連絡メールには明記してありましたので、スタッフの方々の落ち度は全く無いのですが、私を含めて複数名「実施要項」通りに洗顔用具やタオルは持参していたものの、シャンプーと石鹸をすっかり忘れるという事例がありましたので・・・。

## 第21回授業デザインワークショップ事後アンケート結果(回答者数:18名)

平成25年9月2日(月)～9月4日(水)愛媛大学城北キャンパス 愛大ミュージ

【設問1】本ワークショップの参加の経緯についてお答え下さい

【1-1】ワークショップへの参加動機は何ですか(複数選択可)

1. 実施要項を見て内容に興味をもったため	5	27.8%
2. 所属部署からの依頼があったため	6	33.3%
3. 他大学・他部署の人と交流したため	0	0.0%
4. 新任研修に参加して興味をもったため	3	16.7%
5. テニユア・トラック必須EDプログラムだから	6	33.3%
6. その他	2	11.1%
合計	22	

【1-2】1-1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

新任教員として参加必須と思っていたから

参加するのは教員として必須だと言われたと思ったから

【1-3】ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した

1. そうである	8	44.4%
2. どちらかといえばそうである	9	50.0%
3. どちらかといえばそうではない	1	5.6%
4. そうではない	0	0.0%
合計	18	100.0%

【設問2】本ワークショップの内容についてお答え下さい

【2-1】ワークショップの目的は、明確に設定されていた

1. そう思う	13	72.2%
2. どちらかといえばそう思う	3	16.7%
3. どちらかといえばそう思わない	2	11.1%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	18	100.0%

【2-2】ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

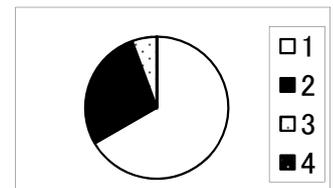
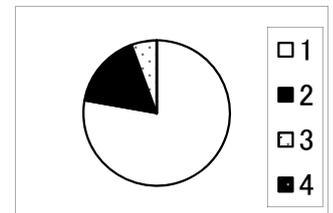
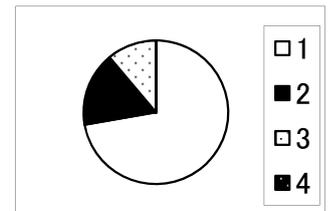
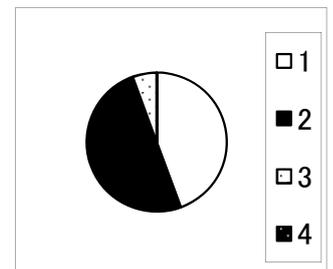
1. そう思う	14	77.8%
2. どちらかといえばそう思う	3	16.7%
3. どちらかといえばそう思わない	1	5.6%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	18	100.0%

【2-3】ワークショップは、わかりやすい順序ですすめられていた

1. そう思う	12	66.7%
2. どちらかといえばそう思う	5	27.8%
3. どちらかといえばそう思わない	1	5.6%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	18	100.0%

【2-4】ワークショップでよかった点は以下のうちどれですか(複数選択可)

1. シラバスの書き方についての理解が深まった	15	83.3%
2. 「何が学生の学びを促進するのか？」(浅い学習と深い学習)について考える機会を得た	7	38.9%
3. 複数の授業方法について知ることができた	13	72.2%
4. 成績評価についての理解が深まった	13	72.2%
5. クラスデザイン(授業計画書の書き方)について理解が深まった	12	66.7%
6. 自らが開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	7	38.9%
7. ワークショップの手法を知ることができた	5	27.8%
8. 他学部等の教員と知り合いになった	13	72.2%
9. その他	0	0.0%
合計	85	



【3-1】ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか<複数選択可>

1. 適切な目的・目標設定ができるようになるようになった	15	83.3%
2. わかりやすいシラバスを書けるようになるようになった	9	50.0%
3. 深い学び・浅い学びについて知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	5	27.8%
4. 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる	13	72.2%
5. 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	10	55.6%
6. 学生参加型のグループ作業を、自ら授業で導入することができるようになった	5	27.8%
合計	57	

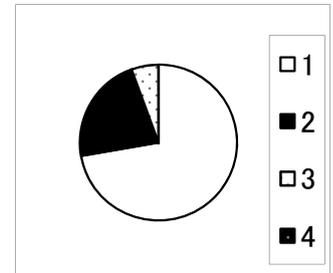
【3-2】ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)

→別添資料参照

【設問4】本ワークショップの研修環境についてお答え下さい

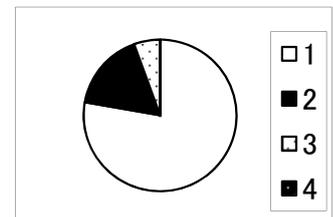
【4-1】講師の言動は学習意欲を高めた

1. そう思う	13	72.2%
2. どちらかといえばそう思う	4	22.2%
3. どちらかといえばそう思わない	1	5.6%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	18	100.0%



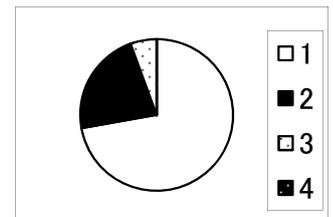
【4-2】事務局は手際よくワークショップを運営していた

1. そう思う	14	77.8%
2. どちらかといえばそう思う	3	16.7%
3. どちらかといえばそう思わない	1	5.6%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	18	100.0%



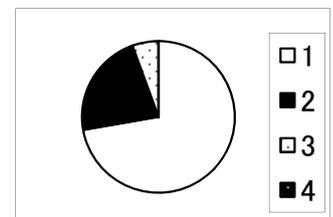
【4-3】ワークショップ会場は快適な環境であった

1. そう思う	13	72.2%
2. どちらかといえばそう思う	4	22.2%
3. どちらかといえばそう思わない	1	5.6%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	18	100.0%



【設問5】本ワークショップは全体を通して満足できるものであった

1. そう思う	13	72.2%
2. どちらかといえばそう思う	4	22.2%
3. どちらかといえばそう思わない	1	5.6%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	18	100.0%



【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

→別添資料参照

ワークショップで学んだ点	教育実践の場でやってみたい点
<p>シラバスがどのように作成されているかを実際おこなうことで学ぶことができた。学生に伝えるように、具体的に書くということに学んだ。シラバスの書き方を教えていただいたことで、シラバスを見たときに、担当の先生がどのように考えられているかを以前より理解することができると感じます。後学期から授業を受け持つため、授業計画の立案方法や教えていただいた授業方法などを活かしていきたいと考えている。配属されている講座の教授の指導も受けるが、自分がどうしてそのように考えて行きたいと思ったかを根拠だてて説明することができると感じます。</p>	<p>4月からの勤務であり、成績評価に関して先生方によって考え方が異なっており困惑し、自分の考えをどうにもつかないでいました。特に実習における成績評価の困難さを感じていたので、自分だけでなく、以後に来られる先生方にも参考になるように、成績評価の基準(指標)を作成したいと考えている。</p>
<p>授業の目的と目標は、区別して考えるべきということ</p>	<p>板書の仕方や、腕組みに気を付けるなど、模擬授業で指摘されたことは今後の授業にも役立てたいと思います。</p>
<p>ワークショップ前に疑問に思っていたことはワークショップを通じてすべて解決することができた。特に講義の組み立て方について動機づけの重要性やテクニックについてシラバスをより具体的に書く方法授業方法について学べた点は大きい。</p>	<p>様々な授業法を試してみたいと思います。また、知識や情報の構造化を行うことで、定着しやすくなるということを授業の中でどんどん取り入れていきたいと思っています。また、他の先生の模擬授業を通じてさまざまな動機づけテクニックを実際に身を以て体験することができましたので、これも試していきたい。</p>
<p>・シラバス表記を魅力的にする方法(動詞・名詞の使い方、伝わりやすさ)について、再検討が必要であること。・教育ツール・マテリアル利用の効果について認識することができた。・成績評価の細分化・普遍化(目標との連動性)の重要性を痛感した。・受講人数によって、最適な講義内容が異なることを認識したこと、講義コンテンツの順番などについて、試行錯誤で良い(悪い)ことではないということ。・講義・教員自体の魅力・アピールの重要性を再確認できたこと。以上の項目を重点的に認識しました。</p>	<p>・シラバスのビジュアル化を実践したい。・「Real」等のシステムを導入してみたい。・レポート・筆記試験以外の評価方法について、具体的に検討してみたい。・基本的なことですが、話し方の改善、板書の理解度向上のための改善、各コマの連関を明確化させること、1コマの中でのメリハリなど、より伝わりやすくしたい。・特に共通教育の講義内容を、学生の意欲向上に効果的になるよう、クラスデザインを含めて再検討したい。</p>
<p>1. シラバスの重要性2. コース・クラスデザインの重要性3. 学生をアクティブにさせるグループワークでの技法4. 学生の記憶に残る講義法5. よく考えた上での事前準備に重要性</p>	<p>1. よく考えた上でのシラバスの作成と授業デザイン2. Think, Pair &amp; Share法を用いたグループワーク3. Yes/Noカードを用いた双方向授業4. ルーブリック評価法を用いたレポートの採点</p>
<p>シラバスの目的と目標の違いが明確になりました。付箋を使ってディスカッションをするKJ法が面白いと思いました。今後使用してみたいと思います。また、レポートの評価におけるルーブリックの使用が大変参考になりました。振り返りワークシートは実践していましたが、様々な方法があることが分かり参考になりました。</p>	<p>KJ法、レポート評価におけるルーブリックの使用など</p>
<p>学生に如何に「良い学びをしてもらおうか?」を考える機会になった。「より良く」「伝わり易い」授業を“少し”の努力で達成できると考えられる様になった。評価の難しさ。様々な教育手法があること。</p>	<p>様々なクリッカーなどを用いた授業。表情を柔らかく、自信をもって授業をし、大人数の学生相手でも、限りなく少人数クラスの様な雰囲気になつた授業。</p>
<p>授業をデザインする上で、シラバス作成や授業計画の立案が非常に有意義で、自身の授業内容に対する理解度や考え方を再認識したり、学生の学びを深めるのに役立つことが実感できたこと。・さまざまな授業方法について、学ぶことができ、さらにどのような目的でどういった状況で、それらが有効であるかということを知ることができた。・学生の学びを深めるための試行錯誤を、グループワークを通じて教員同士で問題点や改善策についてディスカッションしたことで、人間関係を深めることができたこと。・今回のワークショップに参加して、知識の定着や学びを深める技術だけでなく、良好な人間関係を構築し、社会に通用する人材を育成することの大切さとそれを実現するための技法についても学ぶことができたこと</p>	<p>ミニ授業で、指摘を受けた点、具体的には話し方(声のトーンや大きさ、話すスピード、口癖)などに注意したい授業を行なう前に、授業計画書を十分に練って、文書化して試すことグループワークを積極的に活用していきたいルーブリック評価は、レポート採点やプレゼンテーションの評価にぜひ取り入れたい</p>
<p>1. 全体構造をデザインすることの重要性2. 学生の反応を確認する方法3. プレインストレーミングの効用</p>	<p>授業の途中での到達度や理解度の確認</p>
<p>シラバスの内容(目的と目標の違い、評価法)について明確に記すことの重要性</p>	<p>今後のシラバス作成に活かしていきたい</p>
<p>・シラバスの各項目(特に目的と目標)の意味と記載すべき内容について ・講義内容が学生に確実に理解され、その知識を定着させるには知識の構造化が重要であること ・構造化の考え方と、授業で活用できる様々な講義法について</p>	<p>・授業の冒頭でYes/Noカードを用いて学生の習熟度を確認し、その状況に応じて講義内容を調整する ・Think,Pair&amp;Shareにより、学生の意見を引き出す、ということを行い、より学生の学びを促進する授業を行いたい。</p>
<p>・教科書や参考書などからシラバスをつくる方法 ・クラス、コースデザインの重要性(知識の構造化、図式化) ・自分の知らなかった様々な授業方法 ・グループワークの有用性 ・学習評価の方法、フィードバックの重要性 ・研修でのミニ授業を実践しての改善点</p>	<p>・現在のシラバスの見直し ・コースデザイン、授業計画書をつくる ・授業方法(プレイン・ストレーミング、thinku.pair.shareなど) ・今回学んだ学習評価の方法 ・テスト、レポート(提出物)などに対して学生へのフィードバック</p>
<p>・シラバスを作成することの大変さがよく分かった。・目的、到達目標の持つ意味、書き方が分かった(自分のシラバスの違いに気づけた)。</p>	<p>・バズセッション、KJ法を取り入れてみたいと思った。</p>
<p>繰り返りに練られてデザインされたワークショップに参加すると、コントロールされている感覚を全く持たない事。主体的に何かを行い、物事を考えた気分にならせてくれた。</p>	<p>「デザインされた偶然」も幾つかあったのだと思う。この事は、良い授業に出た時の学生の気持ちを考える上で、ずっと気に留めておきたい。</p>
<p>実際にワークショップをやってみて、共同で作業することによって個人では出てこなかったアイデアを得ることができるという面と、逆に、共同で作業することで各個人の個性・能力が消されてしまうという面と、両面を体験することができました。また、さまざまなグループワークをとり入れた模擬授業を受講し、学生の視点から、学びを有効に推進させるケース、学生のプレッシャーになるのではないかとと思われるケースなど、いろいろと考えることができました。それから、これまではシラバスのフォーマット(「目的」「到達目標」…)の意図がよく分からず、教員にとっても書きにくい、学生にとってもその授業がどういう授業か伝わりにくく思っていたのですが、そのフォーマットを作った側の意図を知ることができたのがよかったです。</p>	<p>これまで、学生→教員の方向で思いを伝える機会は設けてきました(ミニツカード)が、今後の課題として、教員→学生の方向、および、学生⇄学生の方向でのコミュニケーションをとり入れたいと考えています。ただ、私自身が担当する授業では、グループワークという方法はあまり向かないのではないかとというのが、ワークショップを体験した上での現段階での考えです(グループワークに関しては、新入生セミナーを担当するときや、指導学生の顔合わせのときなどに、有効に使えるのではないかと考えています)。学生個人の内面を守ってあげられるような形で、学生同士が他の学生の考えを知り、お互いに学びを深めてゆくことのできる方法を模索してゆきたいと考えています。今考えているのは、匿名(またはペンネーム)でコメントを書かせ、ランダムに交換し、他の学生のコメントについてコメントする、というような方法です。うまくゆかどうかが分かりませんが、後期からの授業の中で試行錯誤してみたいと思います。なお、グループワークなどの手法が積極的に取り入れられてゆく近年の動向の中で、「深くで消極的」な学びを好む学生(私自身がそうであったような学生)が大学という場に居づらくなってしまわないよう、そういう学生の個性を救い取ってあげられるような授業、および成績評価を目指したいということも、自分にとっての新しい課題として認識しました。</p>

ワークショップで学んだ点	教育実践の場でやってみたい点
<p>きちんとデザインされた授業というものを身をもって体験することで、今までの自分がどれほど「ひとりよがり」で「自己満足的」な授業をしていたかということに気づかされ、心底反省しました。またワークショップ全体を通して、「学生主体」の授業の面白さや必要性を知ることができ、自分の授業スタイルを変える大きなきっかけになりました。</p>	<p>とりわけ、YES/NOカードの効果には驚き、すぐにも授業のなかに取り入れられる手軽さも大変ありがたいと思いました。学科の学生たちは子どもといっしょに制作活動をすることが多いので、YES/NOカードもアイスブレイキングの一環として各自で手作りさせても面白いかなと考えています。後期の授業でさっそく試してみようと思います。</p>
<p>一人で考える講義内容より、複数の人と一緒に考えて作り上げる講義は、学生の学びのためにより質の高い講義になると感じました。自分の講義では、講義形式以外に、学生が作業する、考える、発表する時間等を加えることにより、メリハリのあるものにしたいと思いました。</p>	<p>自分のプレゼンテーションをみていただき、大きな声で話すこと、学生に積極的に話すことを常に気をつけることとして頭に入れておくべきことだと実感しました。ぜひ、後期にはこれらを実践したいと思います。</p>

【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

受講側としてはもちろん、最後の模擬授業の形態が気になるわけですが、「どの回の授業を行うかは班の中で統一」「授業の中のどの10分をやるかは自由(しかし同一が好ましい??)」「4会場に分かれるので班の人はバラバラで発表する」といった重要事項について、必ずしも明示されていなかったと思います。早い段階でこれらを明示すればそれを念頭に置いて作業ができるのでよかったですのではと感じました。

セミナーは中身が非常によく練られていて、非常に深く学ぶことができ、振り返ってみるととても充実したワークショップであったことを実感しております。ただ、先生方の研究の時間を考えると三日間という期間が少し長いかなと感じました。模擬授業を二日目に持ってくることもありなのではないかと思いました。ありがとうございました。

温かく迎えてくださり感謝しています。

教員の中には、研究成果をあげることに日々追われているため、FD活動は重要かもしれないがとても面倒なものと考えている者もいます。私もその一人ですが、教員は教育サービス提供機関の一員としての自覚を持つべきであり、教員には教育の質向上につながる技術習得と努力が必要であることを再認識いたしました。今回のワークショップを通して、教育の質向上につながる様々な手法・技術を学ぶことができ、是非、今後の講義に取り入れたいと思います。このワークショップの開催にあたり、講師・スタッフの皆様には、準備・運営に相当な時間と労力が費やされたと思います。ここに深く感謝いたします。

ミニ授業の体系やシステムがわかるまでに時間を要したので、最終日に配布された「ミニ授業発表会進行表」を2日目の前半に配布して頂けると、準備し易いように思いました。スタッフの皆さんのコメント等がすべてポジティブで、やる気が出るワークショップでした。研究室ミーティングや授業等でも、参考にさせて頂きたいと思えます。大変お世話になり、ありがとうございました！

講師の先生方には、懇切丁寧にご指導いただき感謝しております。3日間大変お世話になりました。

大変親切にして頂き有意義な3日間を過ごすことができました。誠にありがとうございました。

事務局の方々に常に笑顔で接していただき、緊張がほぐれました。

社会人として、本来持つてなくてはいけないスキルですが、授業を取り入れながらのグループワークで、少しついていけない時がありました。

私は、授業を行った経験がほぼ皆無のため、現場で感じる問題意識や苦悩を持っていない。それらの問題にメスを入れ、解決策を提示して下さる本ワークショップは、教員の経験が1年以上でもある人にとっては恐らく大変有益だろうと思う。しかし、教育経験が皆無に等しい教員一年目の私にとっては、宝石の価値を知らない人間に大きなダイヤを幾つも見せている状況に近いと思う。事物を自分なりに価値付けができないため、講義中に洪水の様に流入する情報をふるいにかける事ができず、「全て吸収しよう」という状況に私は陥る。一見すると意欲的に見えるこの行動だが、本人としてはそれが今後役に立つのか見当がつかないまま行っている。そのため、今後のワークショップでは、このような新任教員もわずかながら入り込むという事を理解して頂き、講師の方には講義中で上述した種類の悩み(?)について何かコメントをして頂けると、受講する側は安心して学習ができると思う。

今回は、<実際におこなうわけではない共通教育のシラバスを共同で一つ作り、グループのメンバーが各教室に分かれて同じ模擬講義をする>というワークでしたが、参加中ずっと、<それぞれが自分が担当する可能性のある共通教育のシラバスを各自作り、グループで意見を出し合いながら練り上げてゆき、それぞれが自身の担当予定科目の模擬講義をする>というワークの方が実用的で、学ぶところも多いのではないかと考えていました(今回のワークからも学ぶところはあったのですが)。どうしてあえて後者のようなワークではなく前者のようなワークにしたのか、その意図をもう少し明示してほしかったです。特に、他の先生方が実際に行っておられる(構想しておられる)教育の実践例をうかがい、教員間で相互批評し、企画室の先生からの批評もいただく、というような機会はずいぶんほしかったです。長時間にわたり、ありがとうございました。

ワークショップに申し込みをした時点では、いろいろと不安がつり、三日間乗り越えられるだろうか…と、後ろ向きな気持ちでいっぱいでした。ところが、いざ研修を受けてみるとその刺激的な内容にわくわくすることばかりで、大変楽しく充実した3日間を過ごさせていただきました。それというのも、講師の先生方やスタッフの先生方の丁寧で温かいご指導とお心遣いがあったからだと思っています。素晴らしい三日間を支えてくださったことに心より感謝を申し上げます。本当にどうもありがとうございました。

・参加費が高い・作業時間を短縮すれば2日間にできると思うので、2日間の方が良いと思う

## 平成25年度「教育力開発基礎プログラム」アンケート集計結果(回答数: 19名) 8月30日~31日開催

問番号	回答項目	大学	短期大学	高等専門学校	その他	未解答	合計
1-(1)	所属先	18	0	0	1	0	19

問番号	回答項目	国(国立大学法人)	地方自治体(公立大学法人を含む)	学校法人	その他	未解答	合計
1-(2)	所属先の設置者	19	0	0	0	0	19

1-(3)自由記述	現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。	※下記に記述
-----------	----------------------------------	--------

2.研修参加への経緯について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
2-1	研修目的や内容についてある程度知った上で参加した	4	12	3	0	0	19
2-2	自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した	4	10	4	1	0	19
2-3	研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した	3	7	5	4	0	19

3.研修プログラムの設計について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
3-1	研修の目的は明確に設定されていた	8	10	1	0	0	19
3-2	研修は自分の業務に生かせる内容だった	11	8	0	0	0	19
3-3	研修はわかりやすい順序ですすめられた	6	9	4	0	0	19
3-4	研修の時間は目的を達成するために丁度よい長さだった	6	11	2	0	0	19
3-5	研修の実施時期は適当だった	7	6	3	3	0	19
3-6	参加者の人数は適当だった	11	7	1	0	0	19

4.講師について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
4-1	講師の言動は学習意欲を高めた	6	11	2	0	0	19
4-2	講師は研修に必要な知識を十分に持っていた	4	13	2	0	0	19
4-3	講師の用意した教材はわかりやすかった	3	11	5	0	0	19

5.研修の会場・スタッフについて		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わな い	未解答	合計回答 数
5-1	研修会場は快適な環境だった	9	8	2	0	0	19
5-2	研修会場には十分な設備が整っていた	9	9	1	0	0	19
5-3	スタッフは手際よく研修を運営していた	11	8	0	0	0	19

6.研修成果について		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わな い	未解答	合計回答 数
6-1	自分に必要な知識やスキルを身につける ことができた	9	10	0	0	0	19
6-2	受講したことによって教育への取り組み方 が改善されると思う	11	8	0	0	0	19
6-3	新たに人的なつながりをつくる ことができた	9	8	2	0	0	19

7.研修全体について		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わな い	未解答	合計回答 数
7-1	研修は全体的に満足できるものだった	12	6	1	0	0	19
7-2	研修は期待を上回る内容だった	11	6	1	1	0	19
7-3	今後も、この研修を継続して いべきだと思う	13	5	1	0	0	19

自由記述	「教育力開発基礎プログラム」に参加してよかったと思われる点を、具体的にお書き下さい。	※下記に記述
	このプログラムをよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。	
	その他、お気づきの点があればご記入ください。	

1-(3)自由記述	現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。
1	学生にわかりやすい授業
2	講義の進め方, 話術
3	魅力ある授業
4	—
5	授業の組立て方(全体, 各回の両面において)
6	時間配分をきちんと考える…有用なスライドと不要なスライドの整理, 精査
7	学生の興味を引くようなコミュニケーションの方法。話し方, 態度など
8	話術, ひきこむ話し方。スライド, プリントに内容を多くもり込んでしまうので, 余計な部分を切りとる
9	授業で話すテンポの調整
10	授業を含めた, プレゼンテーションetcのスキル(いかに他人に伝えるか)
11	資料の見やすさ, ポイントの押え所を伝えやすくする。
12	高等教育機関での授業手法(実践と研究を基盤としてオリジナリティなものをプレゼンするという事)
13	対話方法, 授業シラバス作成, 授業案の作成の仕方
14	・シラバス, 授業計画作成は, 今年度より実際, 担当しているのでスキル必要! ・学生のモチベーションをあげる講義
15	学生とのインタラクションを毎回取り込んだ講義の流れ
16	英語力
17	学生とのインタラクティブな授業の仕方。
18	話し方, 資料の提示の仕方
19	授業に関するハード面のスキル(パワポの扱いなど)

自由記述	「教育力開発基礎プログラム」に参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
1	研修そのものも良かったが、様々な分野の人と会う機会としても良かった。
2	他学部 of 諸講義を見学でき、参考になった。
3	他の先生の模擬講義を聞いた(受講できた)こと。とても参考になった。
4	色々な講義のスタイルを学んだ。知り合いが増えた。
5	他の先生の講義の一斑の拝見をできたこと。 自分の授業をいいこと, わるいこと問わず, 意見を言ってくれたこと。 幅広い分野の先生に出会えたこと
6	多人数の模擬授業を見て, 目からうろこでした。また, 授業を他者から客観的に良い点, 悪い点をご指摘いただいたのも良かったです。
7	他の先生方, 分野の授業をみて, 興味を引くような話し方, スライド構成, 学生とのかわり方を参考にすることができて良かったです。
8	具体的にどこをどうなおせば, いい授業になるかを確認できました。(頭ではわかっているけど, どうすべきかはなかなかだれも教えてくれないので)
9	他の先生方の授業をたくさん聞いて参考になった。
10	他分野の先生の授業をみることができ, 自分の授業をすすめる上で, 大変参考になりました。
11	他分野の先生方との交流。授業方法(スライドの使い方, 話の進め方)の聴講。
12	—
13	学生への授業の仕方, 評価の仕方など, 様々な知識が得られた。他学科の授業内容や方法が分かり, 今後の授業にすすめたい。
14	・自分の授業計画, 講義について, 見直し改善する機会になった ・他領域の先生方との出会い。

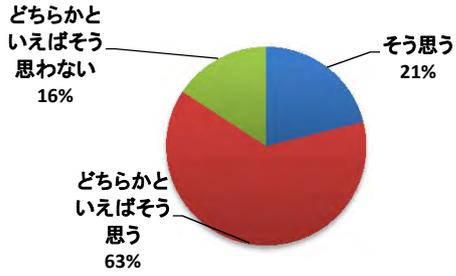
自由記述	「教育力開発基礎プログラム」に参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
15	・ぼんやり苦手と思っていたことを明確に指摘してもらえた。 ・先生方の多様なとくみ、とくに学生との密かなインタラクションを含むやり方が実際に行われていると知ることができた。
16	細かいところまで指導を頂いてよかった。
17	他の人の授業を見れたこと
18	他の教員の工夫や苦勞を知ることができた点。 グループ作業が自然にできるようにプログラムが工夫されていた点
19	教育開発センターの皆さんが、研修の成功のために頑張っておられる姿を見られたこと。

7自由記述	このプログラムをよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
1	上記のメリット(交流する機会)についても事前にもう少しアピールすると参加者も増えるのでは？
2	開催時期を採用後早期にした方が良いと思う。学生ボランティアなど実際の学生を参加させて意見を聞くのが良いのでは。
3	個人懇談的なものもあってもいいかも
4	—
5	—
6	事前に用意してある機材の説明をしていただけると良いかもしれません。
7	予備知識がなく、1日目前半の講義が難しかったので、もう少し説明があれば良かったです。
8	会場でどんな機材が使えるかを、前もって知りたかった。(PPTだけでなく)、Web(ネットワーク)、音響設備
9	前半の(初日の午後最初)講義は難解だったので、もう少し要点を絞って欲しかった。
10	助教のころより、授業を行う機会があり、どのように行ってよいか分からず困った経験があります。対象者を助教まで広げて良いのでは。(授業担当者のみでも)
11	—
12	—
13	—
14	・もう少したくさんの方の講義を見聞きたい。 ・改善した後の模擬授業行う。
15	シラバスや授業計画のチェックは専門的知識が必要。もっと時間を割くかそのような知識のいらぬチェック項目にする。
16	—
17	模擬授業のみでも良いのではないかと
18	スタッフの方の話の内容は、重要な点を扱っていたとは思いますが、自分の言葉で話している方が少なく、なかなか入り込めなかったのが残念。また、アメリカの文献の引用が多かったが、大学の事情が違うので、適用が難しい面もあった。
19	口頭、メールで川野、香川先生にお伝えしますので、何かの役に立てれば幸いです。

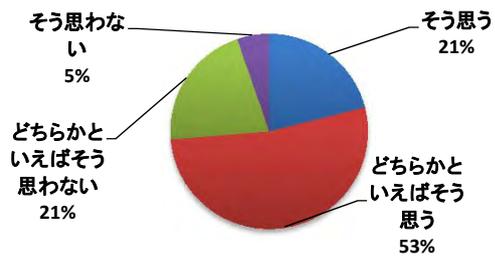
7自由記述	その他、お気づきの点があればご記入下さい。
14	とてもよい学び、出会いの場となりました。ありがとうございました。
15	授業の仕方を整理、分類する軸を考えられれば、自らの位置づけと過不足を認識しやすい。手抜きのようなのだが、テンプレートを見つける事ができる。パイロットモデル？
18	夏休みに実施する必然性は分かるが、もう少し時期をずらせないか？講義時期から、あまり時間が空いていない方が望ましい。

※自由記述の番号は回答者が連動しています。

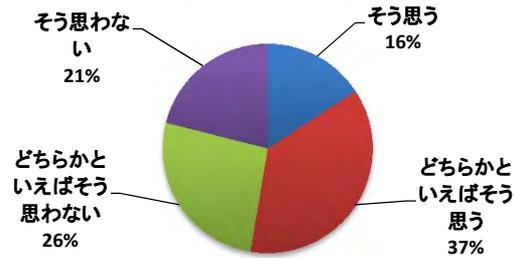
2-1 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した



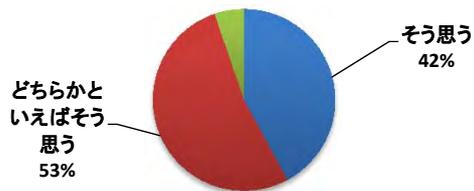
2-2 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した



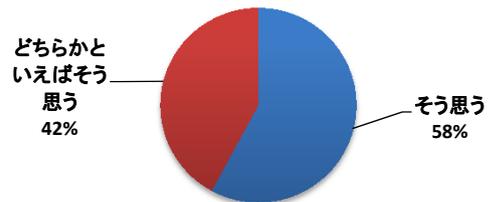
2-3 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した



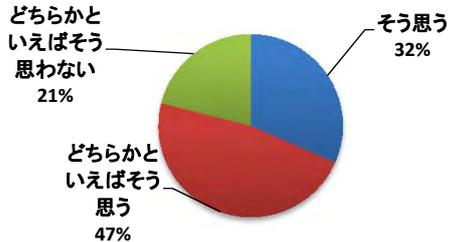
3-1 研修の目的は明確に設定されていた



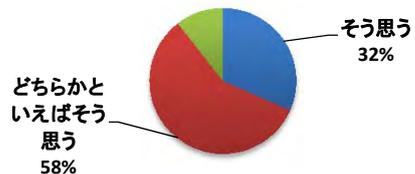
3-2 研修は自分の業務に生かせる内容だった



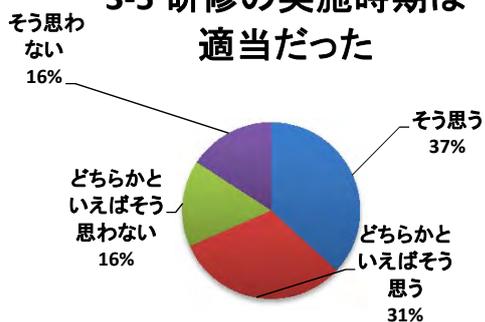
3-3 研修はわかりやすい順序ですすすめられた



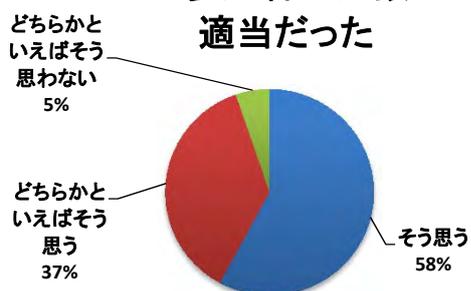
3-4 研修の時間は目的を達成するために丁度よい長さだった



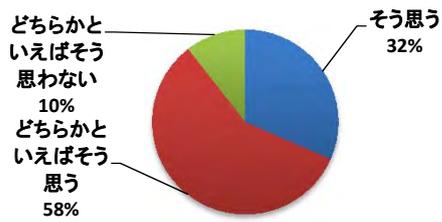
3-5 研修の実施時期は適当だった



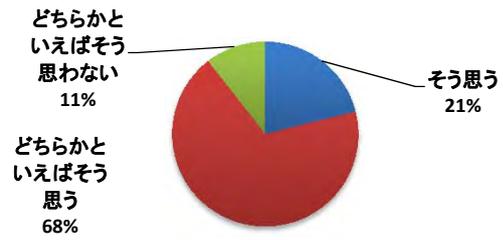
3-6 参加者の人数は適当だった



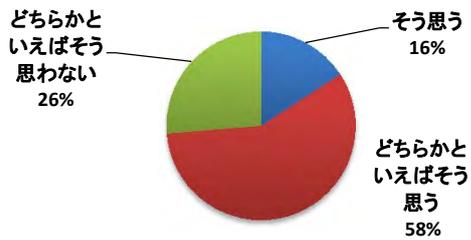
#### 4-1 講師の言動は学習意欲を高めた



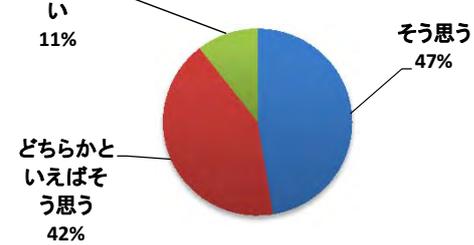
#### 4-2 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた



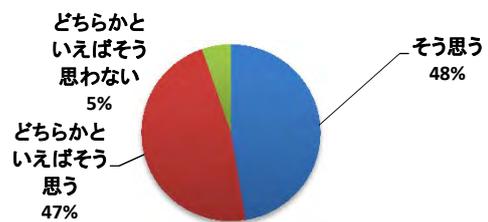
#### 4-3 講師の用意した教材はわかりやすかった



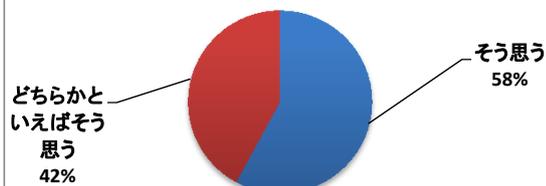
#### 5-1 研修会場は快適な環境だった



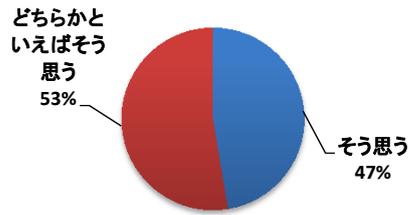
#### 5-2 研修会場には十分な設備が整っていた



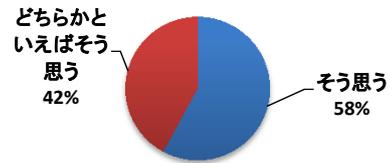
#### 5-3 スタッフは手際よく研修を運営していた



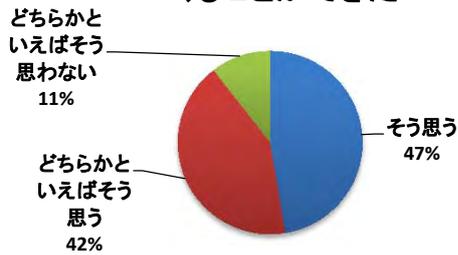
6-1 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた



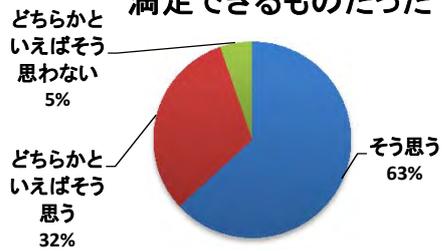
6-2 受講したことによって教育への取り組み方が改善されると思う



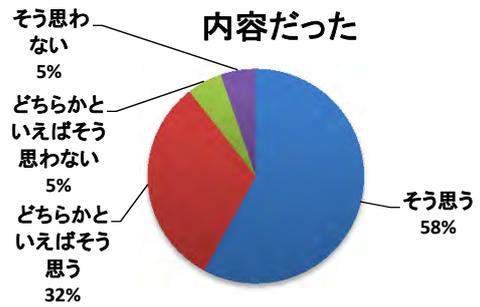
6-3 新たに人的なつながりをつくることができた



7-1 研修は全体的に満足できるものだった



7-2 研修は期待を上回る内容だった



7-3 今後も、この研修を継続していくべきだと思う



## SPOD研修アンケート集計結果

研修名:第4回「よりよい授業のためのFDワークショップ」

実施日:平成25年9月12日(木)から13日(金)

実施会場:休暇村讃岐五色台

参加者数:11名

アンケート回答者数:9名

設問1 本ワークショップへの参加の経緯についてお答え下さい。

1-1 ワークショップへの参加動機は何ですか

①新任研修に参加して興味をもったため	
②実施要項を見て内容に興味をもったため	3
③所属部署からの依頼があったため	6
④他部署の人と交流したいため	
⑤その他	
合計	9

1-2 1-1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい。

1-3 ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した

①そうである	2
②どちらかといえばそうである	5
③どちらかといえばそうではない	2
④そうではない	
合計	9

設問2 本ワークショップの内容についてお答え下さい。

2-1 ワークショップの目的は、明確に設定されていた

①そう思う	6
②どちらかといえばそう思う	2
③どちらかといえばそう思わない	1
④そう思わない	
回答数	9

2-2 ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

①そう思う	7
②どちらかといえばそう思う	1
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	1
回答数	9

2-3 ワークショップは、わかりやすい順序ですすすめられていた

①そう思う	7
②どちらかといえばそう思う	2
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	9

2-4 ワークショップでよかった点は以下のうちどれですか&lt;複数選択可&gt;

①学生の考える良い授業・悪い授業について考える機会を得た	4
②シラバスの書き方について理解が深まった	7
③複数の授業方法について知ることができた	4
④成績評価について理解が深まった	6

⑤自らが開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	3
⑥ワークショップの手法を知ることができた	6
⑦他学部等の教員と知り合いになれた	7
⑧その他	1

その他の内容・他大学との違い(講義・授業に始まり大学のあり方等)を、交流を通して知ることが出来た。

設問3 本ワークショップに参加しての成果についてお答え下さい。

3-1 ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか<複数選択可>

①適切な目的・目標が設定できるようになった	3
②わかりやすいシラバスを書けるようになった	7
③様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	4
④様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	3
⑤学生参加型のグループ作業を、自ら授業で導入することができるようになった	6

設問4 本ワークショップの研修環境についてお答え下さい。

4-1 講師の言動は学習意欲を高めた

①そう思う	7
②どちらかといえばそう思う	2
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	9

4-2 事務局は手際よくワークショップを運営していた

①そう思う	7
②どちらかといえばそう思う	1
③どちらかといえばそう思わない	1
④そう思わない	
回答数	9

4-3 ワークショップ会場は快適な環境であった

①そう思う	6
②どちらかといえばそう思う	3
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	9

設問5 本ワークショップは全体を通して満足できるものであった

①そう思う	7
②どちらかといえばそう思う	1
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	1
回答数	9

## 【自由記述欄】

3-2 ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書きください。

・大学において授業をすることの難しさとともに、面白さを感じられる2日間でした。私が学んだことは、大きく2点です。

1つめは、シラバスについてです。目的や目標を設定して、どのような名内容を、どのような方法で学びを深めていくかを考える作業が、まさにシラバスを作成することなのだと感じました。これまで、テキストの目次等を参考にして、いわゆる「こなす仕事」として作成していたことを反省しました。後期の授業からは、シラバスをもう一度見直して、見通しをもった授業づくり、授業実践を進めたいと思っています。

2つ目は、グループワークの進め方です。これまで、安易に「さあ、グループで話し合いなさい」と言っていたけれど、目的を定めてすべきことをきちんと指示しないといけないと感じました。いろいろな方法を体験できたので、授業場面で活用してみたいと思っています。

・今までシラバスを書いたことがなかったので、シラバスを書く時の注意事項を具体的に学ぶことができた。シラバスを書く時から授業の構成が決まっているという言葉が印象的だった。今まで書いてきた社会科の年間計画や単元構成図とシラバスとの共通点もあり、興味深かった。後期に1人で担当する「授業実践論B」に生かしていきたい。

また、協同学習の種類と成果、留意点については、大人数講義の際に困っていたことを解決できるきっかけをいただいた。

後期からの大人数講義の中に効果的に取り入れたいし、学校現場に帰ってからも十分に活用できるものであった。

・シラバスというと、授業の概要と成績評価を、それぞれ単発的に記すだけという印象を持っていたが、その他の到達目標なども含めて、シラバス中の各要素を有機的かつ体系的に結び付けていくことの必要性を痛感した。

専門分野(漢文学)の演習や講読といった、テキストを読解していく授業では、グループワークの導入が難しい面もある。だが発問の仕方として、学生の側が回答しやすい方向へと導くやり方のヒントが、ワークショップの中に散りばめられていたので、参考にしたい。また講義形式では、学生間で読の内容理解などで相違が見られたので、それをいくつかのグループに構成し、討論させるなどといったグループワークも、実践してみたい。

・学生の能動的な問題解決能力を涵養する機会を提供する為にもアクティブラーニングを積極的に取り入れたい。

積極的な発言を促し、授業を活性化させるアイスブレイキングを取り入れる。

コミュニケーションカード、クリッカーを用いて双方向授業を実践したい。

各自に番号を振り分けたり、色分けすることも不公平感が無く、スムーズに参加を促す良い方法なので、是非取り入れたいと思う。

・グループで授業シラバスを作成するという経験は、一人でシラバスを作成した経験しかない自分にとって(知り合いからアドバイスをもらうことはありますが)とても貴重なものでした。

また、複数の先生で協力して進めるという授業(同じ科目を各々が独立して教えるのではなく)は、教員相互の学びの切っ掛けとなるようにも思いました。

今後、学生参加型の授業を実施する際には、学生を活性化させる方法、評価方法など、色々と参考にしたいと思っています。

・ラウンドロビンを実際に、さっそく授業で使った。躓いた点としては、講師の方々も散々指摘して下さっていたが、環境整備と学生の能力の調整である。グループの人数や時間管理、指示の明確化などには気を使うことができていたものの、肝心の学生から、グループワークに対する取り組みの意欲を主体的に持ち得ているか・環境的に引き出すことができるのかの算段を見誤る結果となった。しかし、次回に繋げることでできる改善点発見等、収穫は大いに得られた。実際にやってみないと見えないことも多々あるとも感じた。また、適宜学生のモチベーションを維持するための教員側の配慮も、学生の質によっては大きな課題となるのが痛切に感じられた。

設問6 本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい。

・少々後ろ向きな消極的な参加でしたが、2日間の研修を終えて、参加してよかったなあと思っています。

若い研究者の皆さんの意見や考え方に大いに刺激を受けました。

スタッフの皆様には、いろいろとお気遣いいただき感謝しています。お世話になりました。

・他の受講生の方々も同じ意見だと思いますが、4月から5月ぐらいに実施できたなら、もっと効果的に前期の授業が実施できたのではないかと考えます。また、研修時間がタイトであり、もう少し余裕をもたせてもよいかと思われます。夜9時まで研修して、翌朝8時からという研修は今まで経験がありません。

13日(金)は香川県教員採用試験の2次試験の合格発表でもあり、教育実習の公開授業日でもあったため、学生の合否も気になり、公開授業を参観したかったという気持ちもあります。

たくさんスタッフの方々にお世話になり、ありがとうございました。香川大学の他学部の方々や他大学の方々とお話しできて、非常に刺激を受けました。このような機会を与えて頂き、ありがとうございました。

・着任当初に見よう見まねで書いたシラバスだったが、次年度からは書き方がある程度理解できたので、その理解を活かして書ければと思う。

・他の先生方の授業の進め方の工夫を聞くことができ、参加して良かったと思っています。ありがとうございました。

・全体的に、非常に興味深く、情報量もあまりに多かった。減らすのはもったいないので、質量ともにこのままでいいと思うが、お菓子やお茶、BGMなど、快適すぎるのも少々贅沢というか、「眠さ」の引き金になるような要因とも考えられ、場合によっては良くないのかも、とも考えた。

・講師の方、スタッフの方、ありがとうございました。

正直こんなに強行日程とは思いませんでしたし、キツかったですが、得られるものはたくさんありました。

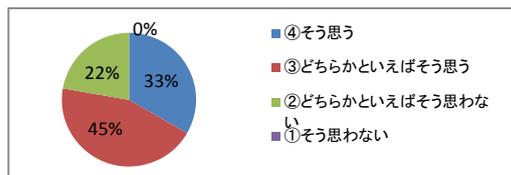
最後の模擬授業の出来は、当たった先生によって上手さが出るので、みんなでやった方がいいと思います。それから、授業実践だけではなく、もう少し成績評価の方の実践などもあればよかったかなと思います。

## SPOD研修アンケート集計結果

研修名 : 学生の学びを支援するための授業準備ワークショップ(新任教員FDワークショップ)  
 実施日 : 平成25年9月2日(月)~3日(火)  
 実施会場 : 高知大学朝倉キャンパス 共通教育棟3号館1階310教室  
 参加者数 : 9名  
 アンケート回答者数 : 9名

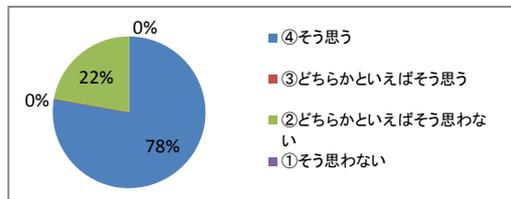
1-1 研修目的や内容についてはある程度知った上で参加した。

	度数	割合
④ そう思う	3	33.3
③ どちらかといえばそう思う	4	44.4
② どちらかといえばそう思わない	2	22.2
① そう思わない	0	0.0
	9	100



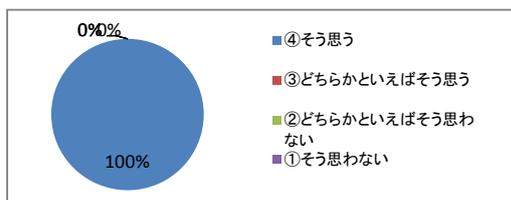
1-2 研修は自分の業務に生かせる内容だった。

	度数	割合
④ そう思う	7	77.8
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	2	22.2
① そう思わない	0	0.0
	9	100



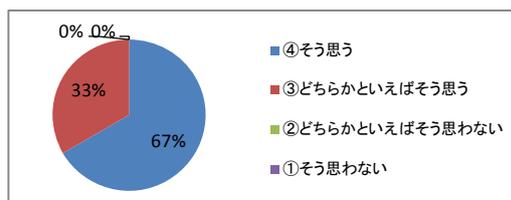
1-3 研修の到達目標が明確に示されていた。

	度数	割合
④ そう思う	9	100.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
	9	100



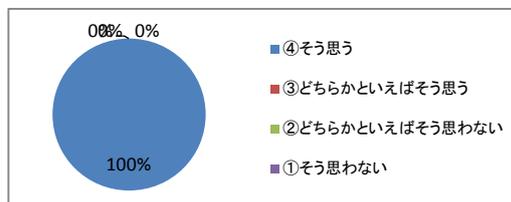
1-4 研修はわかりやすい順序ですすすめられた。

	度数	割合
④ そう思う	6	66.7
③ どちらかといえばそう思う	3	33.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
	9	100



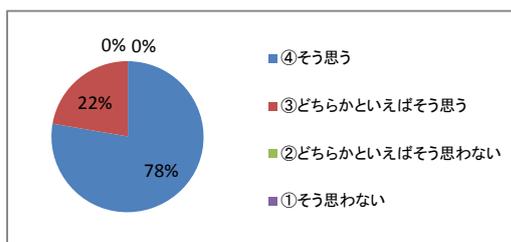
1-5 講師の言動は学習意欲を高めた。

	度数	割合
④ そう思う	9	100.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
	9	100



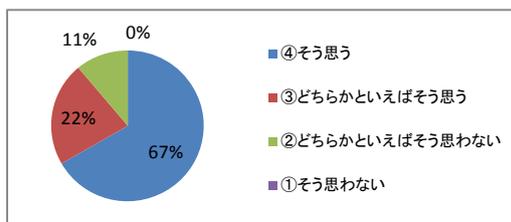
1-6 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた。

	度数	割合
④ そう思う	7	77.8
③ どちらかといえばそう思う	2	22.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
	9	100



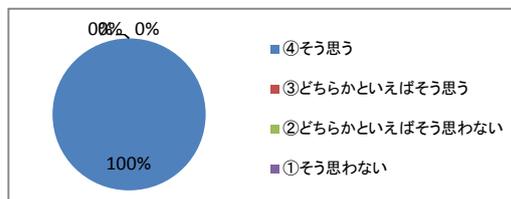
1-7 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う。

	度数	割合
④ そう思う	6	66.7
③ どちらかといえばそう思う	2	22.2
② どちらかといえばそう思わない	1	11.1
① そう思わない	0	0.0
	9	100



1-8 研修は全体的に満足できるものだった。

	度数	割合
④ そう思う	9	100.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
	9	100



2.研修ですぐに使ってみたいと感じたこと(アクションプラン)を、具体的にお書きください。
シラバスの書き方。アクティブラーニング(ジグソー法)
グループワークの効果的な運営。シラバスの充実。
シラバスの書き方・組み立て方。(目的→目標→評価方法という流れを明確にする)
参加型授業、いろいろなスタイルの参加型参加を促すわかりやすいきっかけづくり。
後期の授業のシラバスの見直しと授業の組み立てを見直したい。
パワーポイントを用いたプレゼンの効果的なやり方について使ってみたいと思った。授業の導入や学生の関心の引き方。
目標として設定する項目を、認知領域、情意領域、精神運動領域の各領域を授業や講座等の性格に応じてバランスよく組み立ててつくりたいと思いました。また、目標設定を評価の基準を意識しながら行っていきたいと思いました。
現在授業は持っていませんので、シラバスについては先の事になりますが、プレゼン等伝えることの全体を見ながら、その時に伝える内容を組み立てていく重要性を得ることができました。説明書類の組み立てに即利用していきたいと思います。
学生へのプレゼンで使えるようなテクニックを得た、来年度の講義で得られた知識を活かしたい。

3.この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
目的と目標の違いについて深く学べたと思う。これまでは何となくの理解であったが、具体的に説明して下さり、よく分かりました。
講義をする立場になってから、講義の内容については充実させるように努力してきたが、それを取りまく環境(シラバスや評価等)については、あまり意識してこなかったもので、その重要を改めて認識できてよかった。
授業の目的・目標・評価方法の関係がわかりやすく整理できた。
シラバス作りについて考えたり体験できたこと、模擬講義のあとでのアドバイスやディスカッションは実践的だった。
目的・目標と評価を連合させて考える事の必要性がわかったこと授業の組み立て等、到達目標をふまえて、どんな方法をとっていけば良いか等より考える事の必要性を感じた。
これまで、シラバスの書き方や授業をする上での技術を学んだことがなかったので良かった。
シラバスについて、特別に時間を取って、知識や考える機会を持てたことは大変よかったと思います。
目的と目標の違い、授業の進め方、規模による進め方の差を知る事ができました
まだ、シラバス作成や講義を行っていないが、今回の研修で自信がついた。

4.この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば具体的にお書き下さい。
特にありません。ありがとうございました。
日程について過度な負担がなく適切であったと思う。模擬授業はいきなりな内容だと難しい面もあるので別の方法を考えていただけるとありがたいと思います。
シラバス、ミニ講義のテーマが、最後までピンとこなかった。専門分野でやる事はこのようなワークショップではできないと思うものもう少し班メンバー全員の専門に関連があると良かった。
自由に話を聞ける時間がもう少しあればよかった。
愛媛大と高知大とでシラバスの形式が異なっているところが、分かりにくかった。

## 次世代リーダー養成ゼミナール実施要項

## 1. 目的

将来、事務職員がトップリーダー（役員）や高等教育界のリーダーとして、大学等の経営を担うために必要な技能（実践力）・知識（理論）・態度を段階的に養成する。

## 2. 達成目標

## 【知識（理論）】

大学等の経営に必要となる以下のことができる。

- ・高等教育に関する知識・理論（高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政）を応用することができる。
- ・経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用することができる。
- ・リーダーシップに関する知識・理論を応用することができる。

## 【技能（実践力）】

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要となる以下のことができる。

- ・情報収集・分析を行うことができる。
- ・企画策定・提案を行うことができる。
- ・判断を行うことができる。
- ・折衝・調整を行うことができる。
- ・後継者育成を行うことができる。

## 【態度】

- ・学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

## 3. 開催日（期間）

（第4回）平成26年 1月23日（木）～24日（金）（徳島大学）

※次世代リーダー養成ゼミナールのプログラムは、2年間で2泊3日×8回実施する。

ただし、全体として必要時間数が確保される場合は、1泊2日とする場合がある。

※平成25年度の開催予定

（第1回）平成25年 5月23日（木）～25日（土）（愛媛大学）

（第2回）平成25年 8月 1日（木）～ 3日（土）（桃山学院大学）

（第3回）平成25年11月14日（木）～16日（土）（香川大学）

## 4. 場 所

徳島市南常三島町1丁目1番地 徳島大学

## 5. 対象者

以下の条件を満たす者。

- ・40歳以下を原則とする。
- ・各機関の長が推薦する者。
- ・SPOD加盟校の職員。
- ・スタッフ・ポートフォリオを作成し、受講申し込み時に提出できる者。  
※スタッフ・ポートフォリオ様式、記入要領等を送付しますので、ご参照ください。
- ・受講にあたっての抱負が明確であり、受講申込時に文書（400文字程度）で提出できる者。
- ・専門職養成プログラム（専門教育・共通教育）のレベルⅡを修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者。  
※各機関においては受講者を選抜する段階で、面接等を実施してください。  
※2年間で修了要件である全日程の9割以上出席可能な人を推薦してください。

## 6. 募集人員

8名程度（各機関より複数受講を希望する場合は優先順位を付す）

## 7. 講師

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	教授	秦 敬治
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師	阿部 光伸
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師	仲道 雅輝
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	助教	清水 栄子
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	特任助教	丸山 智子
愛媛大学教育学生支援部	部長	米澤 慎二
愛媛大学総務部人事課	課長	吉田 一恵

## 8. 修了要件

- ・全日程の9割以上出席。
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）をこなし、合格すること。
- ・最終口頭試問で合格すること。
- ・全てのプログラムについてA～Dの4段階で評価し、総合判定A～Cの評価を得ること。

※修了後は、SPODのSD講師に登録すること。

## 9. 主催

主担当：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）事務局

協力校：高知大学

## SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成25年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）  
 実施日：平成25年9月26日（木）～9月27日（金）  
 講師：愛媛大学 仲道雅輝，丸山智子  
 実施会場：愛媛大学本部第2会議室  
 アンケート回答者数：20名

## 1. 参加者ご自身について

## (1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	17	85.0
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	3	15.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	20	100.0

## (2) 所属先の設置者

	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	18	90.0
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	1	5.0
③ 学校法人	1	5.0
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	20	100.0

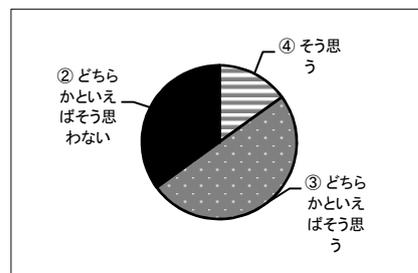
## (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に）

別紙記載

## 2. 研修参加への経緯について

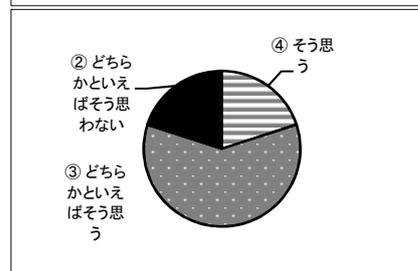
## (1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	3	15.0
③ どちらかといえばそう思う	10	50.0
② どちらかといえばそう思わない	7	35.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



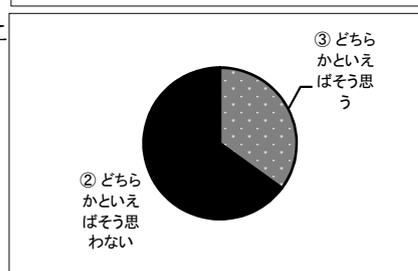
## (2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	4	20.0
③ どちらかといえばそう思う	12	60.0
② どちらかといえばそう思わない	4	20.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



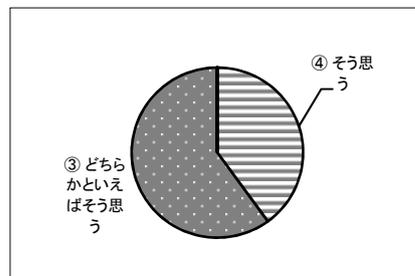
## (3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	0	0.0
③ どちらかといえばそう思う	7	35.0
② どちらかといえばそう思わない	13	65.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

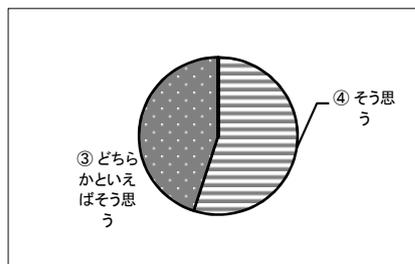
	回答数	割合
④ そう思う	8	40.0
③ どちらかといえばそう思う	12	60.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



3. 研修プログラムの設計について

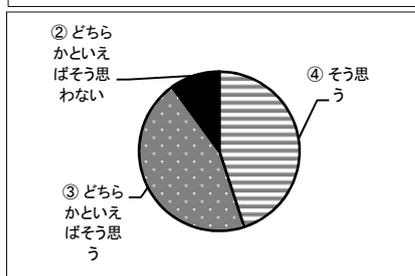
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	11	55.0
③ どちらかといえばそう思う	9	45.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



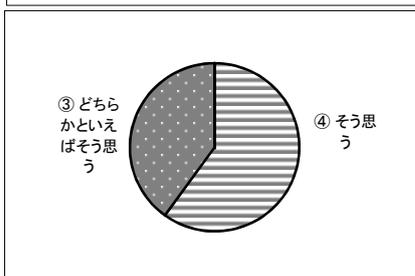
(2) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	9	45.0
③ どちらかといえばそう思う	9	45.0
② どちらかといえばそう思わない	2	10.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



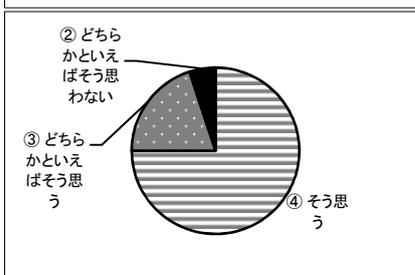
(3) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	12	60.0
③ どちらかといえばそう思う	8	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



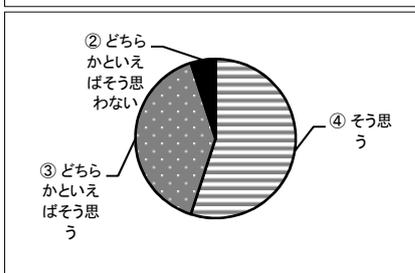
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	15	75.0
③ どちらかといえばそう思う	4	20.0
② どちらかといえばそう思わない	1	5.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



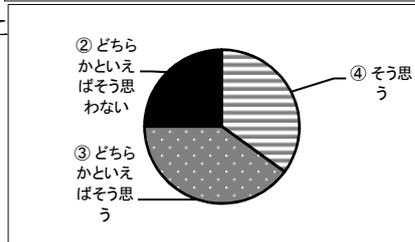
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	11	55.0
③ どちらかといえばそう思う	8	40.0
② どちらかといえばそう思わない	1	5.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



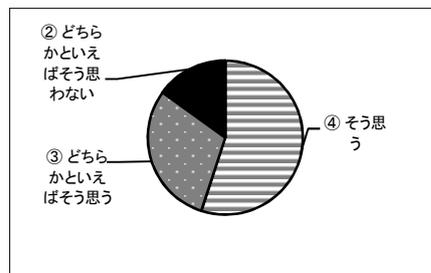
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	7	35.0
③ どちらかといえばそう思う	8	40.0
② どちらかといえばそう思わない	5	25.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



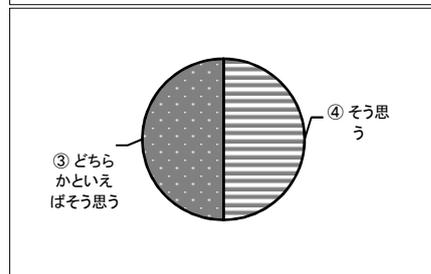
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	11	55.0
③ どちらかといえばそう思う	6	30.0
② どちらかといえばそう思わない	3	15.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



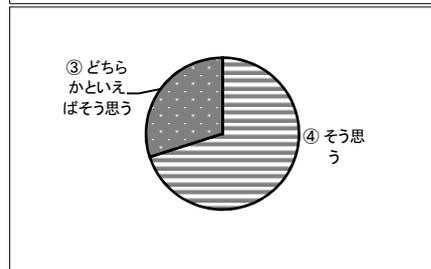
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	10	50.0
③ どちらかといえばそう思う	10	50.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

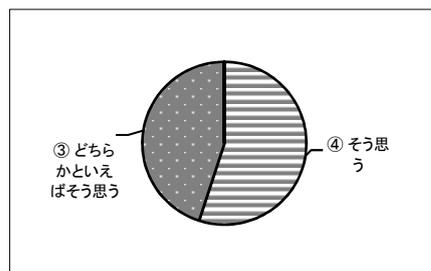
	回答数	割合
④ そう思う	14	70.0
③ どちらかといえばそう思う	6	30.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



4. 研修スタッフについて

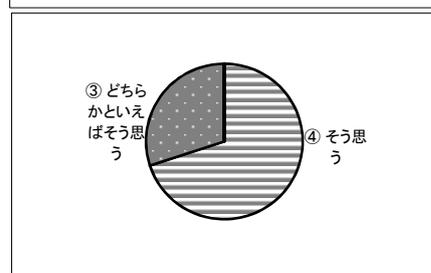
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	11	55.0
③ どちらかといえばそう思う	9	45.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



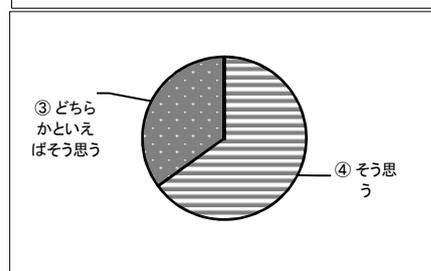
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	14	70.0
③ どちらかといえばそう思う	6	30.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



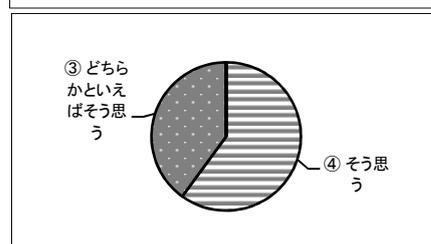
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	13	65.0
③ どちらかといえばそう思う	7	35.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



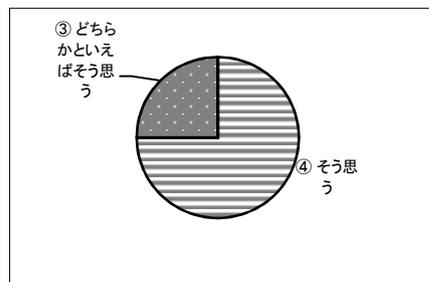
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	12	60.0
③ どちらかといえばそう思う	8	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

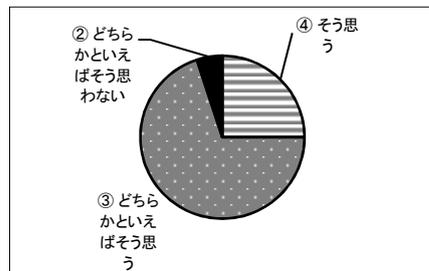
	回答数	割合
④ そう思う	15	75.0
③ どちらかといえばそう思う	5	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



5. 研修成果について

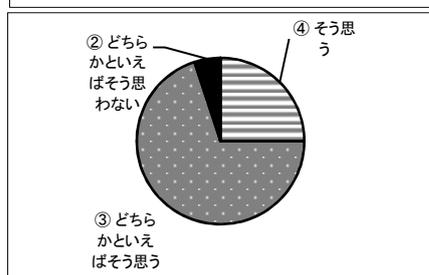
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	5	25.0
③ どちらかといえばそう思う	14	70.0
② どちらかといえばそう思わない	1	5.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



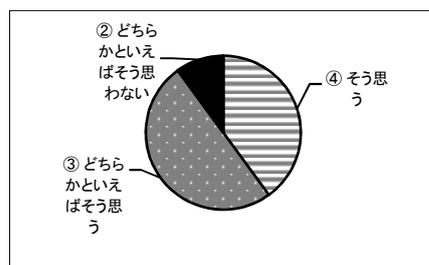
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	5	25.0
③ どちらかといえばそう思う	14	70.0
② どちらかといえばそう思わない	1	5.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



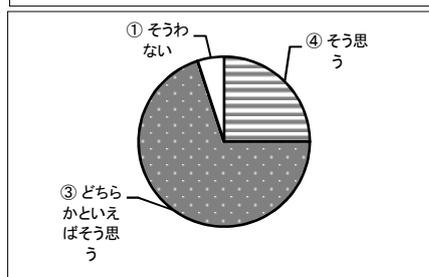
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	8	40.0
③ どちらかといえばそう思う	10	50.0
② どちらかといえばそう思わない	2	10.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	5	25.0
③ どちらかといえばそう思う	14	70.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	5.0
計	20	100.0



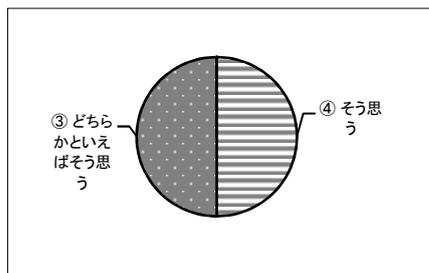
受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

6. 研修全体について

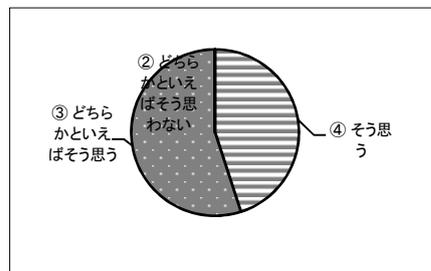
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	10	50.0
③ どちらかといえばそう思う	10	50.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



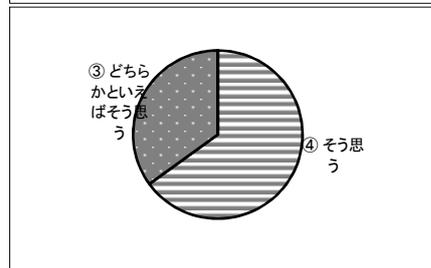
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	9	45.0
③ どちらかといえばそう思う	11	55.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	13	65.0
③ どちらかといえばそう思う	7	35.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



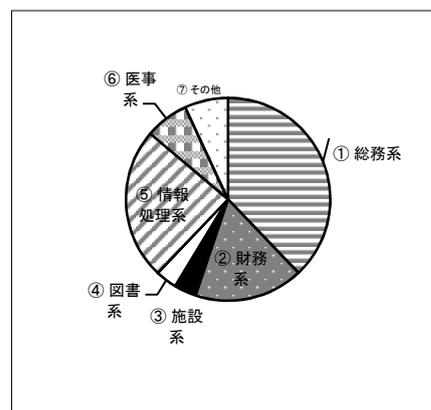
研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

## 7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 総務系	11	37.9
② 財務系	5	17.2
③ 施設系	1	3.4
④ 図書系	1	3.4
⑤ 情報処理系	7	24.1
⑥ 医事系	2	6.9
⑦ その他	2	6.9
計	29	100.0



その他の記述内容

- ・ 国際系
- ・ 知的財産

## 【自由記述欄】

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・ 企画力 (6)
- ・ リーダーシップ力 (2)
- ・ プレゼンテーション能力 (2)
- ・ コミュニケーション能力 (2)
- ・ 調整力 (2)
- ・ 施設の大型プロジェクト業務
- ・ ワーキング
- ・ 委員会
- ・ 実務に直結する専門知識
- ・ 重要な案件, 急ぎの案件が重複したときにも対応できる業務スキル
- ・ チームリーダーとして, チーム内のコミュニケーションを高め, 情報伝達を向上させる。チームとして行うプロジェクトを, 計画的に明確な目標をもって行う能力を高めたい。
- ・ 理論に基づいた実践力
- ・ 指導力
- ・ ゼロから物事を進める能力
- ・ 学務関係の規程について理解を深める。
- ・ 語学力の向上
- ・ 課題抽出能力
- ・ 交渉能力
- ・ 分析・設計
- ・ 納期の決まっている物事に対しての計画立案の最初からの立ち上げ

5. 受講して良かったと思われる点を, 具体的にお書き下さい。

- ・ 何かのプロジェクトに参加して, 自分がリーダーになった時に役立つ内容でした。
- ・ パソコンを使った研修が初めてだったので, 模造紙に書くよりも時間も短縮でき, グループ内での確認もやりやすかったので, 良かった。
- ・ 受け身でなく能動的な研修で良かった。
- ・ 改めて自分の仕事の仕方を振り返り, 改善すべき点を認識できた。
- ・ プレゼンを行えたところ。
- ・ 今回は今までになく実践的で, 退屈することなく, かつ, 有意義であった。
- ・ プロジェクトの工程管理 (細分化)
- ・ プロジェクト・マネジメントに必要な能力・資質について知ることができた。
- ・ 自分に足りないものを見つけることができた。また, 忘れていたことを感じることもできた。
- ・ 自分の抱えているプロジェクトに利用できると思いました。

- ・ 日常の業務に活かせる内容が多く含まれていたと思う。
- ・ 自分としての今までの至らなさを自覚でき、反省しきりである。自分の悪いところを気づいて良かったです。
- ・ 過去に上手くいかなかったことに対して、どうして失敗したのか手がかりが得られた。
- ・ 自分に欠けている点が明確になった。
- ・ プロジェクトやリーダーシップについて、スキルやそれ以外の重要な視点を学習できた。
- ・ 仕事に活かせる研修でした。
- ・ 具体的なミッションについて、グループで長く議論できたのが良かった。
- ・ おそらく今後に役立つであろうと思う。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・ 講師の時間指定が、あやふやであった。
- ・ 時間が足りなかった。もっと深くやりたかった。
- ・ 発表の手順が講師の先生が言われた通り行われなかった。
- ・ 班の入れ替えもよい方法ではないか。
- ・ 若干、説明が抽象的な部分があった。
- ・ 最終発表後の質疑応答時間がもっと取ればリアルに掘り下げられたと思います。
- ・ やはり、暑いときであれば、無理のない授業速度でお願いしたいです。
- ・ 2日間で企画プランをまとめるのは時間的な余裕が少々厳しいのではないかと思われる。もう少し研修期間を設けてもよいかと思います。



## SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成25年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）  
 実施日：平成25年10月17日（木）～10月18日（金）  
 実施会場：愛媛大学本部棟5階（第2会議室）  
 アンケート回答者数：48名

## 1. 参加者ご自身について

## (1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	45	93.8
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	3	6.3
④ その他（ ）	0	0.0
計	48	100.0

## (2) 所属先の設置者

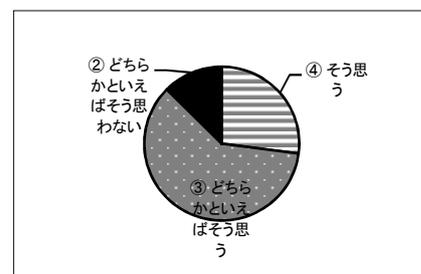
	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	39	81.3
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	6	12.5
③ 学校法人	3	6.3
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	48	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に）  
別紙記載

## 2. この研修について

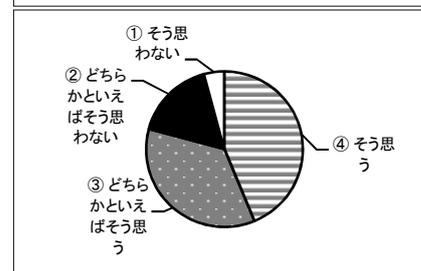
## (1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	13	27.1
③ どちらかといえばそう思う	29	60.4
② どちらかといえばそう思わない	6	12.5
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



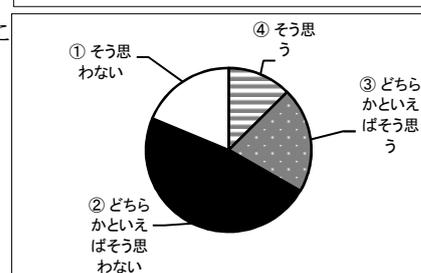
## (2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	21	43.8
③ どちらかといえばそう思う	17	35.4
② どちらかといえばそう思わない	8	16.7
① そう思わない	2	4.2
計	48	100.0



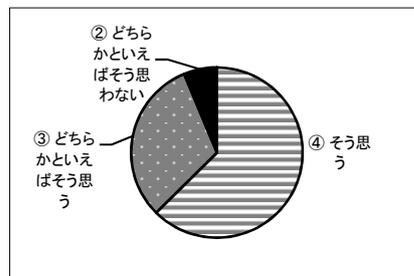
## (3) 研修内容をすぐに活用しなければならぬ状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	6	10.0
③ どちらかといえばそう思う	10	23.0
② どちらかといえばそう思わない	23	9.0
① そう思わない	9	18.8
計	48	60.8



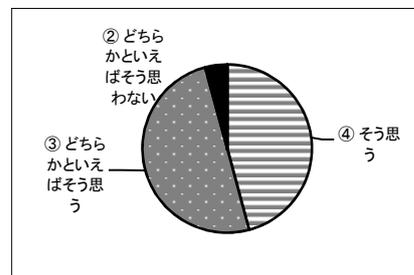
(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

	回答数	割合
④ そう思う	30	62.5
③ どちらかといえばそう思う	15	31.3
② どちらかといえばそう思わない	3	6.3
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



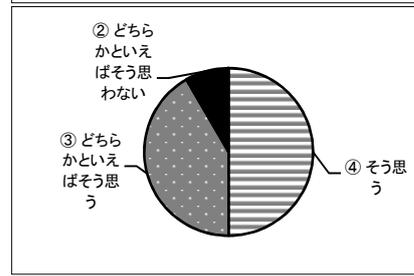
(5) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	22	45.8
③ どちらかといえばそう思う	24	50.0
② どちらかといえばそう思わない	2	4.2
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



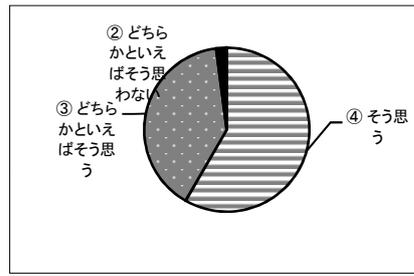
(6) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	24	50.0
③ どちらかといえばそう思う	20	41.7
② どちらかといえばそう思わない	4	8.3
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



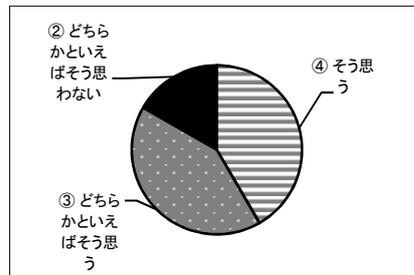
(7) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	28	58.3
③ どちらかといえばそう思う	19	39.6
② どちらかといえばそう思わない	1	2.1
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



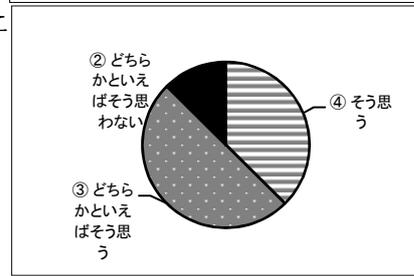
(8) 参加者の人数は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	20	41.7
③ どちらかといえばそう思う	20	41.7
② どちらかといえばそう思わない	8	16.7
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



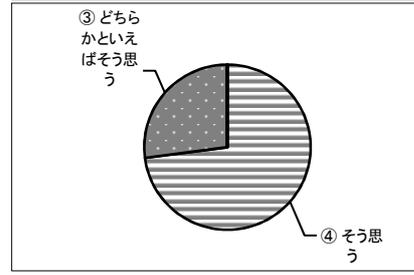
(9) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	18	37.5
③ どちらかといえばそう思う	24	50.0
② どちらかといえばそう思わない	6	12.5
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



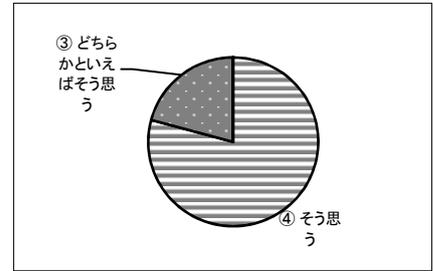
(10) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	35	72.9
③ どちらかといえばそう思う	13	27.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



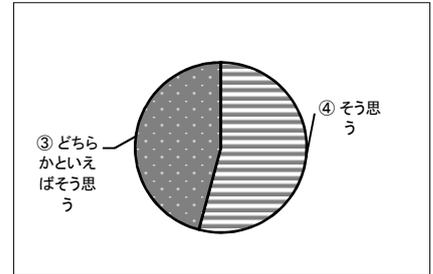
(11) 事務局の対応は丁寧だった

	回答数	割合
④ そう思う	38	79.2
③ どちらかといえばそう思う	10	20.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



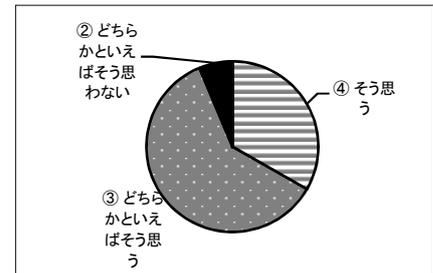
(12) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	26	54.2
③ どちらかといえばそう思う	22	45.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



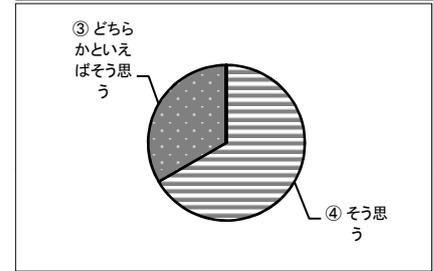
(13) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	16	33.3
③ どちらかといえばそう思う	29	60.4
② どちらかといえばそう思わない	3	6.3
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



(14) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

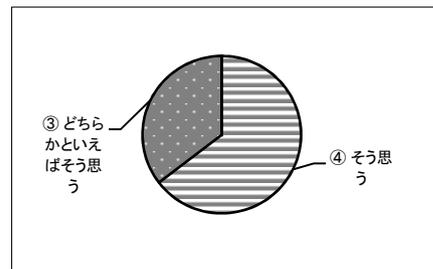
	回答数	割合
④ そう思う	32	66.7
③ どちらかといえばそう思う	16	33.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



3. 「タイムマネジメント論」研修について

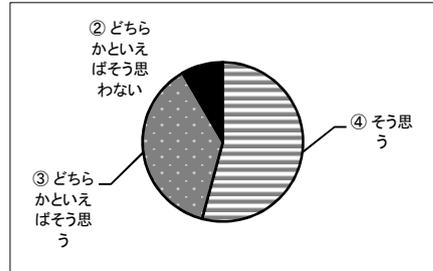
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	31	64.6
③ どちらかといえばそう思う	17	35.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



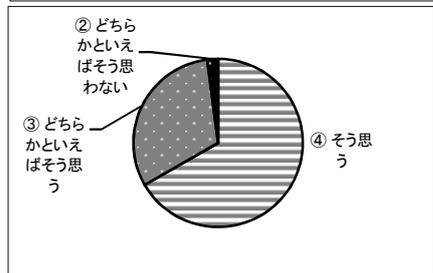
(2) 研修の到達目標が明確に示されていた

	回答数	割合
④ そう思う	26	54.2
③ どちらかといえばそう思う	18	37.5
② どちらかといえばそう思わない	4	8.3
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



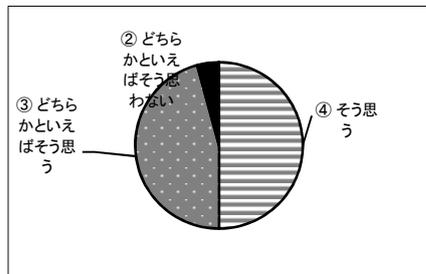
(3) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	32	66.7
③ どちらかといえばそう思う	15	31.3
② どちらかといえばそう思わない	1	2.1
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



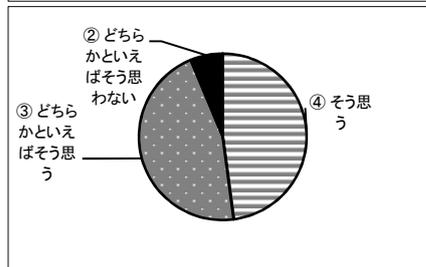
(4) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	24	54.5
③ どちらかといえばそう思う	22	50.0
② どちらかといえばそう思わない	2	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	48	109.1



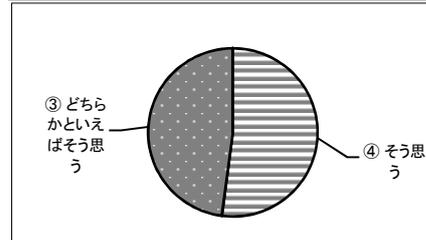
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	23	47.9
③ どちらかといえばそう思う	22	45.8
② どちらかといえばそう思わない	3	6.3
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



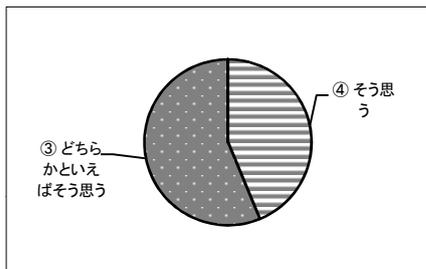
(6) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	25	52.1
③ どちらかといえばそう思う	23	47.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



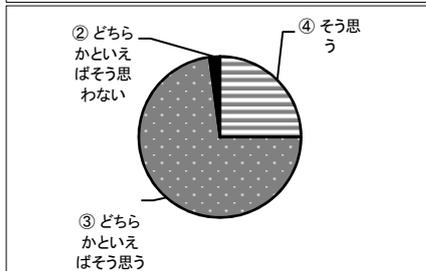
(7) 研修の内容は十分に理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	21	43.8
③ どちらかといえばそう思う	27	56.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



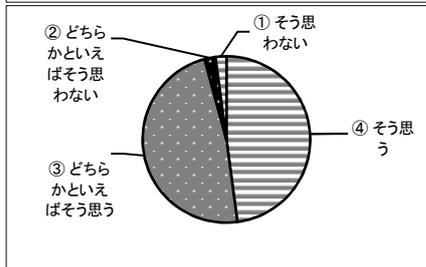
(8) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	12	25.0
③ どちらかといえばそう思う	35	72.9
② どちらかといえばそう思わない	1	2.1
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



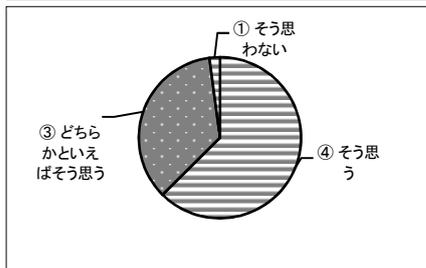
(9) 受講したことによって業務への取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	23	47.9
③ どちらかといえばそう思う	23	47.9
② どちらかといえばそう思わない	1	2.1
① そう思わない	1	2.1
計	48	100.0



(10) 研修は全体的に満足できるものだった

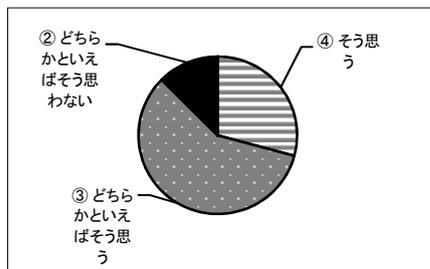
	回答数	割合
④ そう思う	30	62.5
③ どちらかといえばそう思う	17	35.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	2.1
計	48	100.0



4. 「リーダーシップ入門」研修について

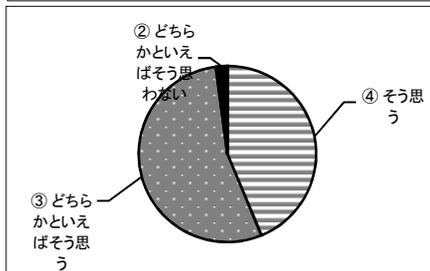
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	14	29.2
③ どちらかといえばそう思う	28	58.3
② どちらかといえばそう思わない	6	12.5
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



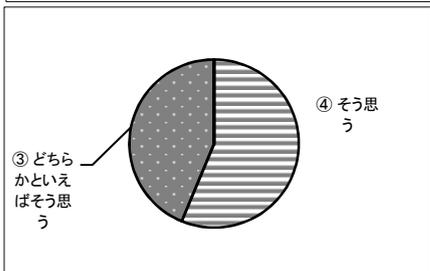
(2) 研修の到達目標が明確に示されていた

	回答数	割合
④ そう思う	21	43.8
③ どちらかといえばそう思う	26	54.2
② どちらかといえばそう思わない	1	2.1
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



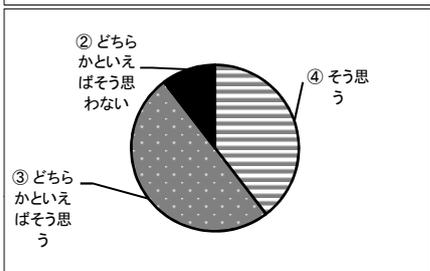
(3) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	27	56.3
③ どちらかといえばそう思う	21	43.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



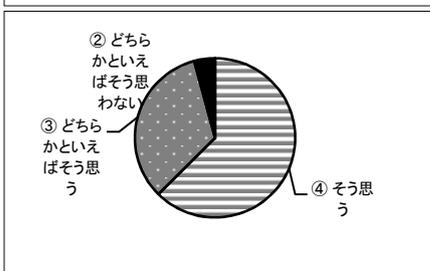
(4) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	19	43.2
③ どちらかといえばそう思う	24	54.5
② どちらかといえばそう思わない	5	11.4
① そう思わない	0	0.0
計	48	109.1



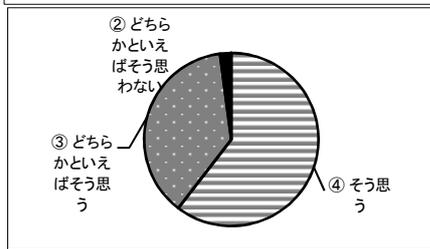
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	30	62.5
③ どちらかといえばそう思う	16	33.3
② どちらかといえばそう思わない	2	4.2
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



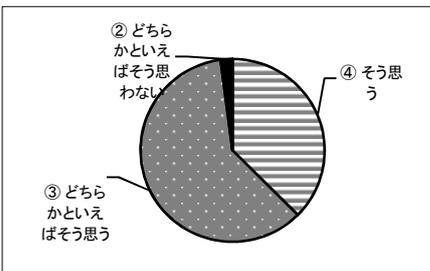
(6) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	29	60.4
③ どちらかといえばそう思う	18	37.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.1
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



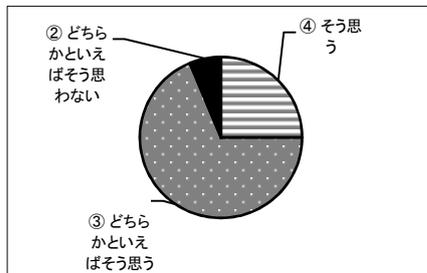
(7) 研修の内容は十分に理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	18	37.5
③ どちらかといえばそう思う	29	60.4
② どちらかといえばそう思わない	1	2.1
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



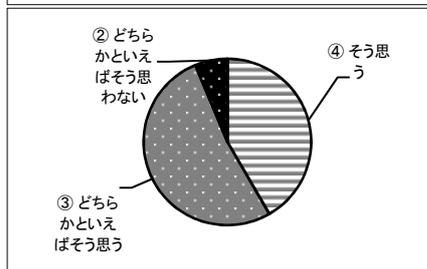
(8) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	12	25.0
③ どちらかといえばそう思う	33	68.8
② どちらかといえばそう思わない	3	6.3
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



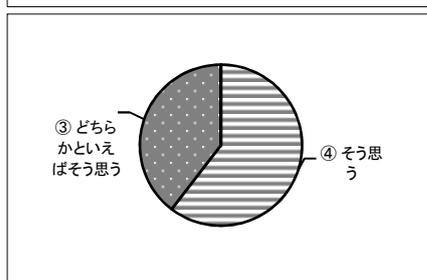
(9) 受講したことによって業務への取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	20	41.7
③ どちらかといえばそう思う	25	52.1
② どちらかといえばそう思わない	3	6.3
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



(10) 研修は全体的に満足できるものだった

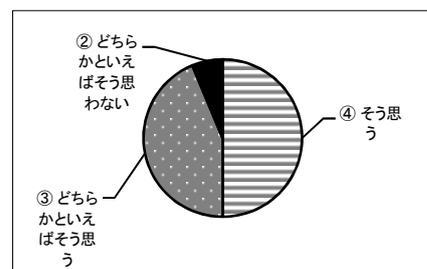
	回答数	割合
④ そう思う	29	60.4
③ どちらかといえばそう思う	19	39.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



5. 「プレゼンテーション入門」研修について

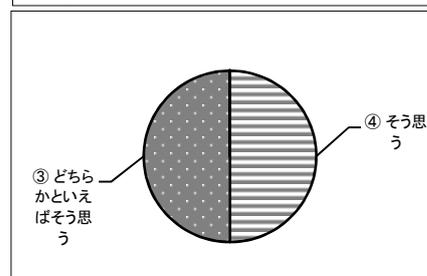
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	24	50.0
③ どちらかといえばそう思う	21	43.8
② どちらかといえばそう思わない	3	6.3
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



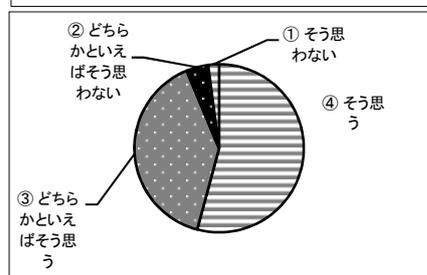
(2) 研修の到達目標が明確に示されていた

	回答数	割合
④ そう思う	24	50.0
③ どちらかといえばそう思う	24	50.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



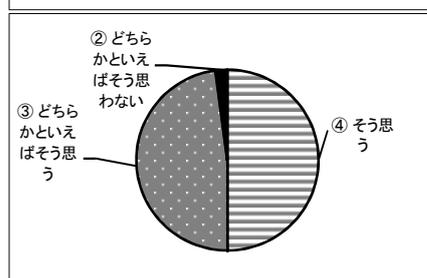
(3) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	26	54.2
③ どちらかといえばそう思う	19	39.6
② どちらかといえばそう思わない	2	4.2
① そう思わない	1	2.1
計	48	100.0



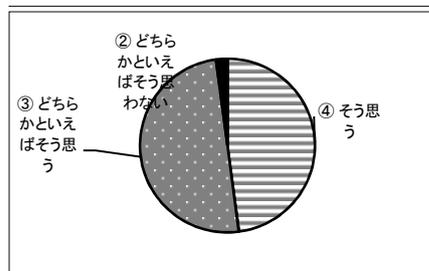
(4) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	24	54.5
③ どちらかといえばそう思う	23	52.3
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	48	109.1



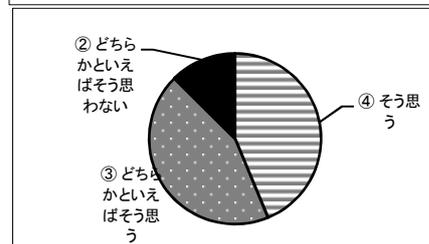
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	23	47.9
③ どちらかといえばそう思う	24	50.0
② どちらかといえばそう思わない	1	2.1
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



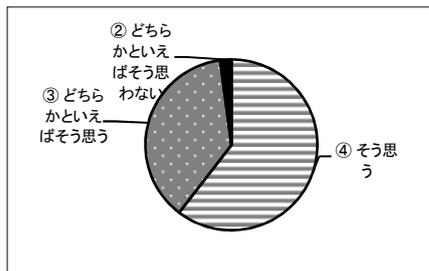
(6) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	21	43.8
③ どちらかといえばそう思う	21	43.8
② どちらかといえばそう思わない	6	12.5
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



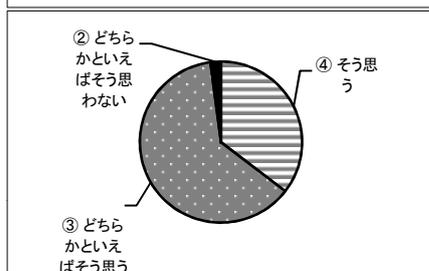
(7) 研修の内容は十分に理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	29	60.4
③ どちらかといえばそう思う	18	37.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.1
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



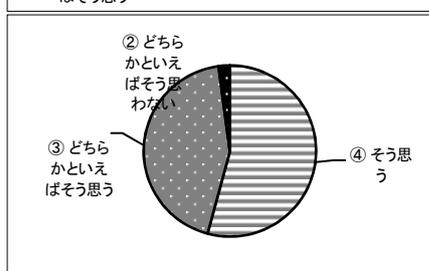
(8) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	17	35.4
③ どちらかといえばそう思う	30	62.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.1
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



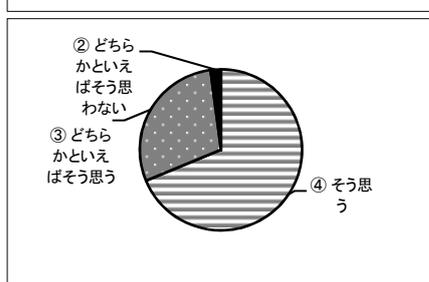
(9) 受講したことによって業務への取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	26	54.2
③ どちらかといえばそう思う	21	43.8
② どちらかといえばそう思わない	1	2.1
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



(10) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	33	68.8
③ どちらかといえばそう思う	14	29.2
② どちらかといえばそう思わない	1	2.1
① そう思わない	0	0.0
計	48	100.0



6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

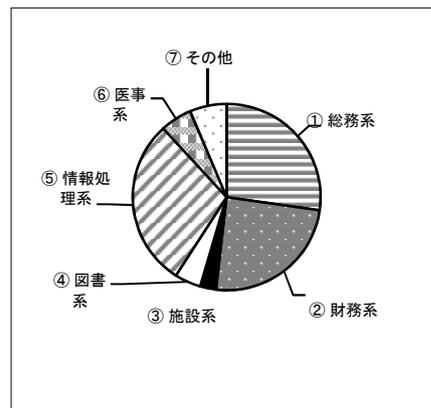
7. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

## 8. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 総務系	30	27.3
② 財務系	27	24.5
③ 施設系	3	2.7
④ 図書系	5	4.5
⑤ 情報処理系	32	29.1
⑥ 医事系	6	5.5
⑦ その他	7	6.4
計	110	100.0



その他の記述内容

- ・学務系（2）
- ・課外活動，学生支援
- ・技術系
- ・カウンセラー
- ・留学，国際系
- ・知的財産
- ・情報収集，分析

## 【自由記述欄】

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・ プレゼンテーション能力 (18)
- ・ コミュニケーション能力 (5)
- ・ パソコンスキル (5) (Excel, Access)
- ・ タイムマネジメント能力 (4)
- ・ 伝える能力 (2)
- ・ 人にわかりやすく説明する, 説得する力
- ・ 簡潔に伝える能力
- ・ 仕事の優先順位をつけること
- ・ 報・連・相
- ・ 英語力
- ・ 文書作成
- ・ リーダーシップの講義でこれから身につけるべきもの, 勉強するべきものが確認できたように思います。
- ・ フォロワーシップ
- ・ ビジョン型リーダーシップ要素
- ・ 自分のビジョンを持つ
- ・ 目標を自ら掲げ共有する習慣
- ・ 積極性 (リーダーシップを活かすこと)
- ・ 業務への前向きな考え方を身につけること。
- ・ クレーム対処法
- ・ 大学職員としての知識・情報・経験
- ・ 医療の知識
- ・ 実務
- ・ 会計事務知識 (決算)
- ・ 人事規則に関する知識
- ・ 大学教育に関する基礎知識
- ・ 業務に直結する知識の取得
- ・ メンタルヘルスを保つスキル

5. 受講して良かったと思われる点を, 具体的にお書き下さい。

(全体)

- ・ 自分の仕事を見直し, 新たな目線, 考え方を学びました。
- ・ 普段悩んでいることの解決の糸口になるので良かった。
- ・ 自分に足りていない部分を補うことができた。何より楽しかった。
- ・ 業務改善に直結する内容となっていた点。
- ・ 業務に対する考え方が変わりました。
- ・ 自分の業務を見直す機会を持つことが出来た点。
- ・ 具体的なアクション方法がわかってとても良かったです。
- ・ 具体的に業務に活かせる内容でよかったです。

- ・ 改めて業務への意欲がでてきました。グループワークで人とのつながりと共に楽しく学ぶことができました。
- ・ 他大学の方と交流できたこと。
- ・ 実践形式で、他大学の方と話しながらできてよかった。
- ・ 四国に友人がたくさんできた。自分の苦手なものが再認識できた。
- ・ 3つの内容いずれもすぐ業務に活かすことのできる内容で、具体的に「明日からこうしよう！」と考えながら受講できました。
- ・ 苦手なリーダーシップや、プレゼンテーションの話を聞くことができて良かった。活かしていきたい。
- ・ あまり意識していなかったタイムマネジメント論や、自分の苦手なプレゼンテーションについてダメな部分、直す部分が明確になってよかった。
- ・ 業務フォローの改善ヒント（タイムマネージメント）を教えていただきました。プレゼン入門も普段レベルのものをふまえて教えていただいたので、良かったです。
- ・ 自分に足りないスキルや知識が身についた。大学職員が講師ということで、親身に聞けた。
- ・ 身近な講師だったのが良かったと思う。
- ・ 講師のみなさん、とても分かりやすい説明でした。
- ・ 具体的な経験談を入れるなど分かりやすかった。

#### (タイムマネジメント論)

- ・ タイムマネジメント論を初めて受講し、改めて自分の業務の進め方について反省し改善していこうと感じた。
- ・ タイムマネジメント論で、月曜から実際に使える考え方があった。
- ・ タイムマネジメント論について、学ぶ事が出来たので、日常業務で使用していきたい。
- ・ すぐに出来るものはすぐ取り組む。空き時間の活用方法
- ・ 時間管理の方法を知ることができた。
- ・ タイムマネジメントの研修は、すぐにでも活かそうと感じました。
- ・ 「手帳の使い方」が画期的だった。
- ・ 例に挙げられていたような手帳を使ってみようと思います。
- ・ 15分間ルール、試してみます。
- ・ タイムマネジメントでの「15分ルール」は、是非実行していきたいです。
- ・ 時間管理の勉強は初めてで大変勉強になった。

#### (リーダーシップ入門)

- ・ 周りが求めるリーダー像
- ・ 今はリーダーシップは・・・と思っていたが、聞いてみたらためになる講義でした。職場では上下関係があり、リーダーになることはなかなかないけど、プライベートとかで実行できることもあるなと思った。
- ・ 具体的な方法を勉強できた。

(プレゼンテーション入門)

- ・ プレゼンの能力が磨けた。
  - ・ プレゼンテーションは、私の中で常に課題であると認識していますので、この研修は何が大切かを学ぶきっかけとなりました。
  - ・ プレゼンに苦手意識が強かったが、同じ内容を2度行うことによって、自分なりに改善点も見つかり、場数を踏めば良くなることが実感できて良かった。
  - ・ プレゼンテーション入門で実践ができたので、自分が気付かないクセや短所がはっきりした。
  - ・ プレゼンテーション入門で、実際にプレゼンをやってみて気づけたことがあった。
  - ・ やってみて難しさがわかった
  - ・ プレゼンでのワークは、緊張の中での発表だったため「場数」の重要性を身をもって体感した気がしました。
  - ・ プレゼンテーションが苦手なので、今回のプレゼンテーション入門はすごく良かったです。ありがとうございました。
  - ・ プレゼンテーションを実践できたことが良かった。
  - ・ プレゼンの練習は、少人数で、短い時間だったので、とても分かりやすく、楽しかったです。
6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
- ・ 説明の時間が長く、ワークの時間が少なかった。(2)
  - ・ もう少し休憩をはさんで欲しい。(2)
  - ・ 少し詰め込みすぎな気もするので、もう少し時間の余裕が欲しいと思った。
  - ・ 会場が狭くて暑い。
  - ・ 会場が少し暑かった。
  - ・ 懇親会開始は30分遅らせてもよいかもしれません。
  - ・ もう少し事前に内容について理解しておきたいと感じました。
  - ・ 入門編は人数多くても問題ないと思います。リーダーシップについては、現在のリーダーポジションの人も受けると組織が活性すると思います。
  - ・ 手元にある資料と前に流れているスライドショーは極力一緒にした方が分かりやすいと思う。
  - ・ プレゼンの手法をもっと時間をかけて欲しかった。
  - ・ 最後のプレゼンについて数人、前で発表し、講師からの総評があればより具体的に分かり良かったのではないかと感じた。
  - ・ プレゼンの際、A4の無地の紙があると、やりやすかったと思います。
  - ・ 今回のこの研修を信頼して大学職員の礎としています。準備等お疲れさまでした。

## 平成 25 年度 全学FD推進プログラム 大学教育カンファレンス in 徳島 プログラム

会期：2013年12月26日（木） 会場：徳島大学大学開放実践センター

8:45 ~ 9:15	受付 <大学開放実践センター1階玄関ホール>		
9:15 ~ 9:30	学長挨拶 香川 征 <第1講義室> 司会：日置善郎		
9:30 ~ 10:15	<b>口頭発表A</b> 座長：羽地達次 <第1講義室> <b>A① 9:30~9:45</b> ■学生討議型授業コンサルテーションの成果と課題～学生の授業に対する取り組み方の変容に注目して～ 教育改革推進センター 吉田 博 他	<b>口頭発表B</b> 座長：小山晋之 <第2講義室> <b>B① 9:30~9:45</b> ■グローバル化社会に向けた大学教養教育 大学院リョ・アツ・アント・サイエンス 研究部 大橋 眞 他	<b>ワークショップ</b> 座長：金西計英 <授業研究イニシアティブ> <b>10:00~12:00</b> ◆教育にインプロをとりいれてみよう インプロを体験するワークショップー 国際センター Gehrtz 三隅友子 他
	<b>A② 9:45~10:00</b> ■大学図書館を活用した学習支援の試み～Study Support Space の運営～ 総合科学部1年 枝川恵理 他	<b>B② 9:45~10:00</b> ■グローバル化社会に向けた国際大学間連携教育プログラム 総合科学教育部博士前期2年 三ツツルツル 他	
	<b>A③ 10:00~10:15</b> ■TBL 授業の導入 病院（歯科第2補綴科） 竹内久裕 他	<b>B③ 10:00~10:15</b> ■eラーニングシステムを経由して提出された理数系レポートに対する定量的解析 大学院リョ・アツ・アント・サイエンス 研究部 宇野剛史 他	
10:15 ~ 10:25	休憩		
10:25 ~ 11:10	座長：上田哲史 <第1講義室> <b>A④ 10:25~10:40</b> ■2013年度大学入門講座「読書レポート」報告 全学共通教育センター 古屋 玲 他	座長：出口祥啓 <第2講義室> <b>B④ 10:25~10:40</b> ■新入生による自動滴定装置の設計と製作 大学院リョ・アツ・アント・サイエンス 研究部 外輪健一郎 他	↓
	<b>A⑤ 10:40~10:55</b> ■大学間連携によるフィールドワーク教育プログラムの開発と実施 大学院リョ・アツ・アント・サイエンス 研究部 豊田哲也 他	<b>B⑤ 10:40~10:55</b> ■大学生による小中学生向けロボット教室の企画運営とその相互評価 工学部2年 遠藤光哉 他	
	<b>A⑥ 10:55~11:10</b> ■地域との連携によるフィールドワーク教育プログラムの成果と課題 地域創生センター 佐野淳也 他	<b>B⑥ 10:55~11:10</b> ■プロジェクト活動で得られたこと～our project activities～ 工学部2年 松本拓磨 他	

11:10~ 11:20	休 憩		<p style="text-align: center;"><b>ワークショップ</b> 座長：金西計英 ＜授業研究イニシアティブ＞ 10:00~12:00</p> <p>◆教育にインプロをとりいれてみよう ーインプロを体験するワークショップー</p> <p>国際センター Gehrtz 三隅友子 他</p> <p style="text-align: center;">↓</p>
11:20~ 12:05	座長：原田健太郎 ＜第1講義室＞	座長：阪間 稔 ＜第2講義室＞	
	A⑦ 11:20~11:35 ■コミュニケーション教育における教育効果の検証方法 大学院ソオ・アツ・アンド・サイエンス研究部 久田旭彦	B⑦ 11:20~11:35 ■化学実験出張講義および体験イベントにおける高大院連携の試み 大学院ソオ・アツ・アンド・サイエンス研究部 南川慶二 他	
	A⑧ 11:35~11:50 ■長期インターンシップを利用した産学官連携活動の推進 大学院ソオ・アツ・アンド・サイエンス研究部 森本恵美 他	B⑧ 11:35~11:50 ■学習を通じた概念形成～高校復習テストの分析から 大学院ソオ・アツ・アンド・サイエンス研究部 齊藤隆仁	
	A⑨ 11:50~12:05 ■知能情報工学科「ソフトウェア設計及び実験」におけるコンピュータゲーム開発が受講生の就職観に与える影響 大学院ソオ・アツ・アンド・サイエンス研究部 光原弘幸 他		
12:05~ 13:00	昼 食 休 憩		
13:00~ 14:30	<p><b>特別講演</b></p> <p>司会：川野卓二 &lt;第1講義室&gt;</p> <p>演題：PBL（Project-Based Learning）の学習効果と質的向上を目指してー同志社大学プロジェクト科目（公募制・教養教育）の試みからー</p> <p>講師：山田和人先生（同志社大学 PBL 推進支援センター長）</p>		
14:30~ 14:40	休 憩		
14:40~ 16:40	<p><b>ラウンドテーブル</b></p> <p style="text-align: center;">座長：日置善郎 ＜第1講義室＞</p> <p>★徳島県内の高等教育機関におけるアクティブ・ラーニングの取り組み</p> <p>鳴門教育大学 山森直人 阿南工業高等専門学校 長谷川竜生 大学開放実践センター 金西計英</p>		
16:40~ 16:50	休 憩		

ポスター発表

座長：岩田 貴 <1階ロビー>

- 高大連携事業「高校生の大学研究室への体験入学型学習プログラム」実施報告（第5報） P①  
大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 渡部 稔 他
- 災害・防災ボランティアへの意識について～授業「災害を知る」を通して～ P②  
大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 山本真由美
- 教職マインドマップ作成によるキャリア基盤形成の試み～教職キャリアノートを活用した省察の統合化～ P③  
大学院ヘルパ イサイエンス研究部 奥田紀久子 他
- 組み込みシステム応用に基づく実践的な教育研究支援 P④  
大学院ソシオ・アーツ・サイエンス研究部 辻 明典
- 実践を重視した教育研究支援現場における技術スキルの獲得 P⑤  
大学院ソシオ・アーツ・サイエンス研究部 石田富士雄
- スキルス・ラボにおける海外交流トレーニング P⑥  
大学院ヘルパ イサイエンス研究部医療教育開発センター 岩田 貴 他
- 医療系学生は医療コミュニケーションをどこで学んでいるか P⑦  
大学院ヘルパ イサイエンス研究部医療教育開発センター 長宗雅美 他
- 日本の大学での英語授業としてクリエイティブ・ライティングを教える方法と効果的な資料の作り方についての概要 P⑧  
全学共通教育センター Dierk Guenther
- いかにして学生のモチベーションを維持するか P⑨  
全学共通教育センター（非常勤講師）ギュンター 知枝
- 日本人のための英語プレゼンテーションのガイドライン P⑩  
徳島文理大学 Christopher Pond
- 巣立ちプログラムにおける「短期インターンシップ」の実践 P⑪  
キャリア支援センター・キャリア教育推進室 山野明美
- 「自主プロジェクト演習」の活動を通して学んだこと P⑫  
工学部創成学習開発センター 三好 遥 他
- 小学生の創作活動を通じた理科教育活動への参画 ―少年少女チャレンジ創造コンテスト― P⑬  
工学部創成学習開発センター 北岡 誠 他
- ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップの試み P⑭  
阿南工業高等専門学校 松本高志
- インシデント事例から学ぶ人間関係 P⑮  
大学院ヘルパ イサイエンス研究部 岩佐 幸恵 他

16：50～  
17：50

情報交換会 <生協食堂>

18：30～  
20：30

平成25年度 全学FD推進プログラム

# 大学教育 カンファレンス in 徳島

参加費  
無料

※情報交換会ご出席の方は  
会費が3,000円  
となります。

平成14年度に開始された徳島大学の全学FD推進プログラムも今年度は第4期の最終年度にあたります。

これまでのFD活動の成果を検証し、FDネットワークを充実・発展させる機会となるよう、本学や四国の高等教育機関で行われている教育実践の先駆的な取り組みを共有し、大学教育の質的向上に向けた努力の成果を確認するための教育カンファレンスを開催いたします。皆様の積極的な参加をお待ちしています。

12月26日(木) 2013年

会場 徳島大学  
大学開放実践センター

9:15~17:50 (8:45受付開始)

## 主要プログラム

詳細は裏面をご覧ください

■開会挨拶 (9:15~9:30)・・・香川 征 (徳島大学長)

### ■研究発表I

- 口頭発表・・・17件 (9:30~12:05)
- ワークショップ(10:00~12:00)  
教育にインプロをとりいれてみよう  
ーインプロを体験するワークショップー

### ■特別講演 (13:00~14:30)

PBL (Project-Based Learning) の  
学習効果と質的向上を目指して  
ー同志社大学プロジェクト科目  
(公募制・教養教育)の試みからー

山田 和人先生 (同志社大学PBL推進支援センター長)

### ■研究発表II

- ラウンドテーブル (14:40~16:40)  
徳島県内の高等教育機関におけるアクティブ・ラーニングの取り組み
- ポスター発表・・・15件 (16:50~17:50)

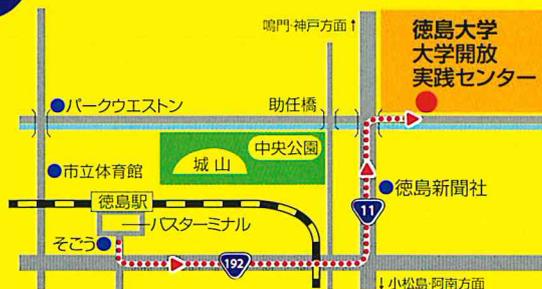
※カンファレンス終了後に情報交換会を行います。

## 参加方法

どなたでもご参加いただけます。  
当日直接会場へお越しいただき、受付をしてください。  
※駐車場が限られているため、できるだけ公共交通機関を  
ご利用の上、ご来場をお願いします。

## アクセス

- ◎徒歩・・・駅から徒歩約20分
- ◎バス・・・【助任橋】下車、徒歩約5分



## お問合せ

徳島大学学務部教育企画室  
大学教育カンファレンスin徳島事務局  
〒770-8501 徳島市新蔵町2-24 TEL088-656-7686  
E-mail:kykikakuk@tokushima-u.ac.jp  
http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/fd/

## 主催

徳島大学FD委員会  
四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

# 平成25年度 全学FD 大学教育カンファレンス in 徳島 プログラム

会期：2013年12月26日(木) 会場：徳島大学 大学開放実践センター

<p>9:15～ 9:30</p> <p>学長挨拶 香川 征</p>	
<p>9:30～ 10:15</p> <p>① 学生討議型授業コンサルテーションの成果と課題～学生の授業に対する取り組み方の変容に注目して～</p> <p>② 大学図書館を活用した学習支援の試み～Study Support Spaceの運営～</p> <p>③ TBL授業の導入</p>	<p>① グローバル化社会に向けた大学教養教育</p> <p>② グローバル化社会に向けた国際大学間連携教育プログラム</p> <p>③ eラーニングシステムを經由して提出された理数系レポートに対する定量的解析</p>
<p>10:25～ 11:10</p> <p>④ 2013年度大学入門講座「読書レポート」報告</p> <p>⑤ 大学間連携によるフイールドワーク教育プログラムの開発と実施</p> <p>⑥ 地域との連携によるフイールドワーク教育プログラムの成果と課題</p> <p>⑦ コミュニケーション教育における教育効果の検証方法</p> <p>⑧ 長期インターンシップを活用した産学官連携活動の推進</p> <p>⑨ 知能情報工学科「ソフトウェア設計及び実験」におけるコンピュータゲーム開発が受講生の就職観に与える影響</p>	<p>④ 新入生による自動測定装置の設計と製作</p> <p>⑤ 大学生による小中学生向けロボット教室の企画運営とその相互評価</p> <p>⑥ プロジェクト活動で得られたこと～our project activities～</p> <p>⑦ 化学実験出張講義および体験イベントにおける高大院連携の試み</p> <p>⑧ 学習を通じた概念形成～高校復習テストの分析から</p>
	<p>10:00～12:00</p> <p>★教育にインプロをとり入れてみよう</p> <p>ーインプロを体験するワークショップー</p> <p>国際センター Gehrtriz三隅友子 他</p>

<p>13:00～ 14:30</p> <p><b>特別講演</b></p> <p>演題：「PBL (Project-Based Learning) の学習効果と質的向上を目指してー同志社大学プロジェクト科目 (公募制・教養教育) の試みからー」</p> <p>講師：山田和人先生 (同志社大学PBL推進支援センター長)</p>	<p>14:40～ 16:40</p> <p>★徳島県内の高等教育機関におけるアクティブラーニングの取り組み</p> <p>鳴門教育大学 山森直人 阿南工業高等専門学校 長谷川竜生 国際センター 坂田 浩</p> <p><b>ワークショップ</b></p> <p><b>ポスター発表</b></p> <p>① 高大連携事業「高校生の大学研究室への体験入学型学習プログラム」実施報告 (第5報)</p> <p>② 災害・防災ボランティアへの意識について～授業「災害を知る」を通して～</p> <p>③ 教職マインドマップ作成によるキャリア基盤形成の試み～教職キャリアノートを活用した省察の統合化～</p> <p>④ 組み込みシステム応用に基づく実践的な教育研究支援</p> <p>⑤ 実践を重視した教育研究支援現場における技術スキルの獲得</p> <p>⑥ スキルズ・ラボにおける海外交流トレーニング</p> <p>⑦ 医療系学生は医療コミュニケーションをどこで学んでいるか</p> <p>⑧ 日本の大学での英語授業としてクリエイティブライティングを教える方法と効果的な資料の作り方についての概要</p> <p>⑨ いかにして学生のモチベーションを維持するか</p> <p>⑩ 日本人のための英語プレゼンテーションのガイドライン</p> <p>⑪ 巣立ちプログラムにおける「短期インターンシップ」の実践</p> <p>⑫ 「自主プロジェクト演習」の活動を通して学んだこと</p> <p>⑬ 小学生の創作活動を通じた理科教育活動への参画ー少年少女チャレンジ創造コンテストー</p> <p>⑭ ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップの試み</p> <p>⑮ インシデント事例から学ぶ人間関係</p>
<p>16:50～ 17:50</p> <p>18:30～20:30 情報交換会</p>	